

374-72



1200501450727

74

12

# 豊橋商工案内

昭和四十四年版

豊橋商工會議所



# 始





酒 清 級 高



宗 正 ル ツ



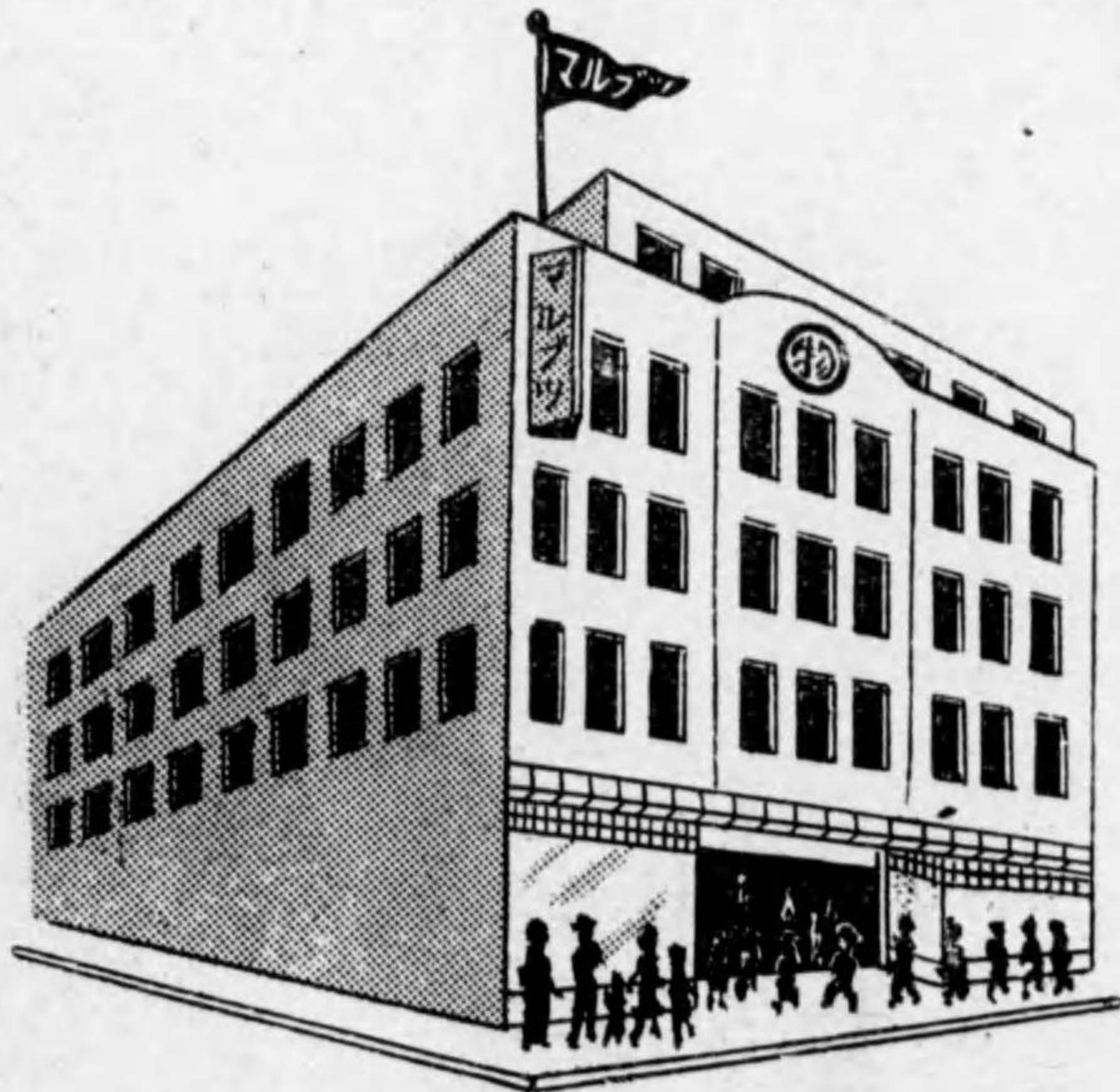
東邦電力株式會社豐橋支店

豐橋市松葉町  
電話代表三一五番





# お買物は 丸物で



皆様の百貨店

## 丸物

本店……京都駅前  
支店……岐阜柳ヶ瀬  
分店……京都西陣

豊橋市  
廣小路

電話代  
二六三九



### 株式 第一銀行豊橋支店

豊橋市萱町十五番地

資本金 五千七百五十萬圓 (拂込済)  
積立金 七千七百五十萬圓

總預金 拾五億參千餘萬圓  
總貸金 九億千餘萬圓

電話代表三二二一番・三二二三番  
振替口座名古屋一三七〇〇番



大藏省 私設保稅工場

ト印各種完全配合飼料製造元

大藏省特許  
私設保稅工場  
養鷄飼料製造  
外國穀類免稅直輸入

ト豊橋飼料合名會社

豊橋市柳生川運河  
電話 三三二  
四三二  
九四九  
三六六  
三七五  
番番番  
發信略號 (ト) 又ハ (トヨ)  
受信略號 トヨハシエサマルト  
振替口座沼古屋一五七一六番  
市外前芝港荷扱所 (電小坂井七番)

豊橋  
蒲郡  
間  
觀光遊覽バス

豊橋電氣軌道株式會社

本社 電話 三三二六八番  
自動車部 電話 二九二九番



營業種目

洗面器類  
大小便器  
一般衛生器  
陶器類  
金具類  
水道カラン  
給水カラン  
フラッシュバルブ  
其他一式



本邦唯一の  
専門工場

生産高  
東洋一

株式會社  
豐橋製陶所

本社  
豐橋市花田町字築地  
電話四一一六番  
電略「トコ」  
振替名古屋一六七七二番

東京營業所  
本所區東駒形一ノ四電話(墨田)九五三番  
名古屋營業所  
中區老松町十一電話(中)三九三一番

日本銀行豐橋代理店  
日本勸業銀行代理店  
日本興業銀行代理店

豐橋市本町



株式會社  
愛知銀行豐橋支店

電話(代表番號)三一一三一番  
振替口座名古屋三一一三五番

市内下地町

下地出張所

電話五三九七番



！れ探を境仙

鳳來峽・湯谷  
 鳳來寺山  
 乳岩めぐり

鳳來寺鐵道株式會社

(番八五九二話電)

鐵道省  
 日本通運株式會社  
 指定店

通 豐橋合同運送株式會社

電話代表三一七一番

本部 三七二番  
 發送部 三七三番  
 到着部 三七三番  
 自動車部 三七二番  
 魚菜部 四七六番  
 四七〇番

宅扱

安くて……簡單  
 早くて……正確  
 手軽で……安全

國府驛荷扱所 (御油局) 五五番  
 船町驛荷扱所 二二〇七番  
 吉田驛荷扱所 四四七番・四八三番・四八三番  
 柳生橋驛荷扱所 四六〇三番  
 柳生川荷扱所 二三〇七番  
 花田驛荷扱所  
 公設市場前驛荷扱所



豐橋乾繭取引所會員

# 八谷中繭絲問屋

豐橋市中柴町字道六

電話 二二八二六三番

受信略號 トヨハシ・ヤナカ



株式會社

# 岡古屋銀行

## 豐橋支店

豐橋市札木町

電話 二二三三番  
三五八〇番  
三五八五番  
四三三〇番  
振替 名古屋四九五〇番



袋物・鞆類製作  
紹ごし仕立と材料

御注文御好みに應じ

製作いたします

豊橋市大手通



杉浦袋物鞆店

電話 五〇八九番

振替 名古屋四六六番  
口座 東京五〇四〇八番

製作設備の完備  
各種材料豊富  
技術優秀價格低廉

▽御一報次第定價表送呈△

繭取引の燈臺

日本唯一の



會員  
組織

豊橋乾繭取引所

豊橋市花田町字石塚三八ノ一

電話 二三〇二番  
四六七七番



營業種目

絹・麻・毛・綿各纖維  
加工並ニ販賣



株式會社

加藤綿行

營業所

豐橋市廣小路四丁目

電話 四九六九番  
五二〇六番

絹綿工場

豐橋市廣小路四丁目

菰口工場

豐橋市菰口町字津夫良



豐橋瓦斯株式會社

本

社

豐橋市花田町字手棒

電話 二五二三番

瓦斯應用實驗場

豐

橋

市

札

木

町

(家庭料理講習場  
榮養惣菜即賣部)

電話 三三三五番



衛生陶器  
タイル  
建築陶器

株式會社 豐橋製陶所特約店

工事部

中外工業株式會社

電話 四九六六番

豐橋市守下町

大津屋建築陶器店

電話 三〇五七番

内外麻苧  
麻絲漁網  
マニラロープ  
其他ロープ類

豐年印  
ミノリ印

マニラ田植紐製造元

商 田中佐助商店

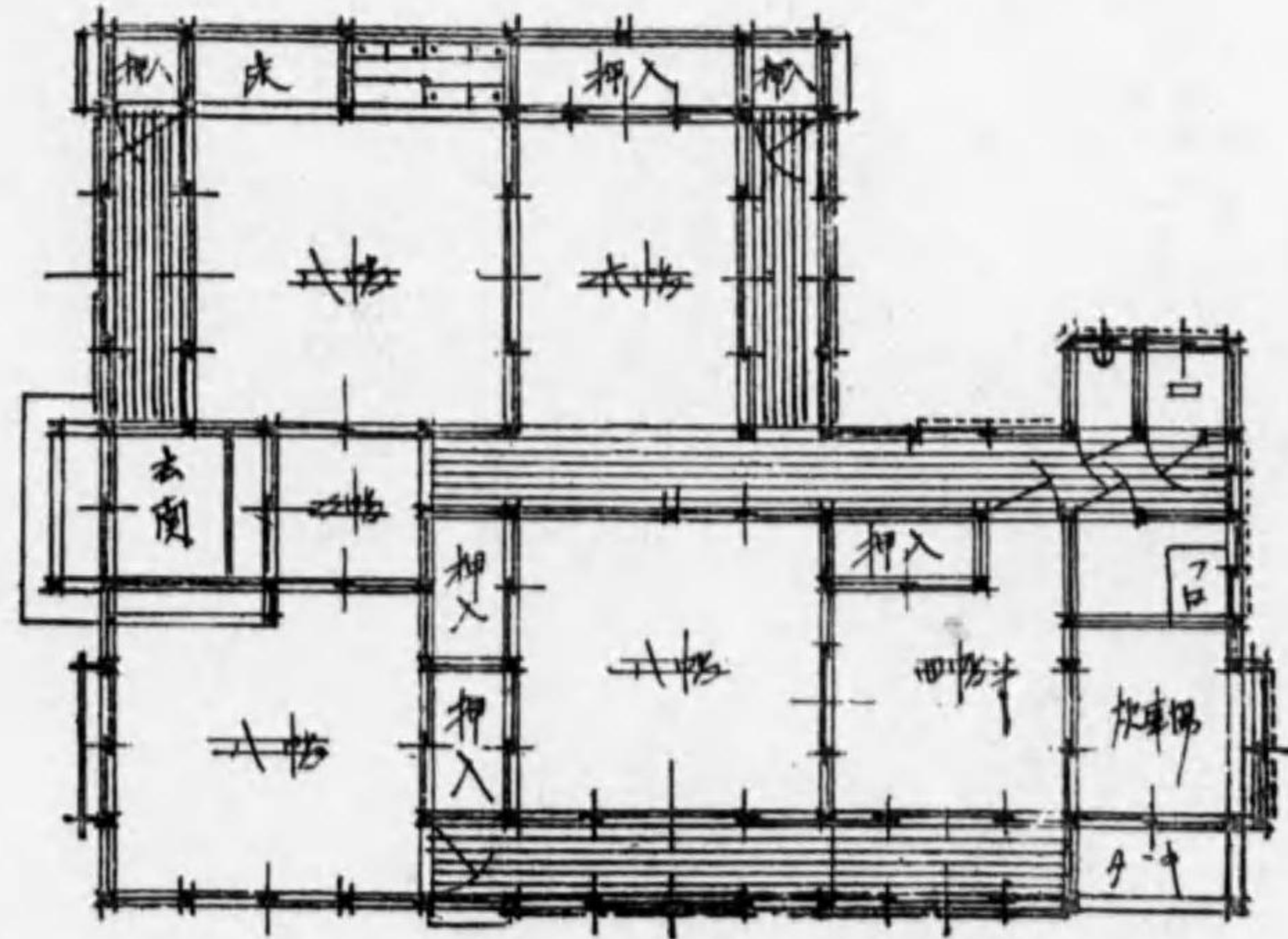
豐橋市魚町八六番地  
電話 二〇三二番  
振替口座名古屋六九八四番



- ◆ 住宅ノ月賦提供
- ◆ 住宅資金ノ貸付
- ◆ 住宅ノ設計施工受託
- ◆ 土地委託經營引受
- ◆ 電話ノ賣買及月賦提供

### 豊橋住宅株式會社

豊橋市曲尺手町  
電話 三二八〇番  
振替名古屋三一二八一番



日本精神鼓吹の秋！  
琴・三味線・太鼓・小鼓  
其他邦樂器の御用は……

豊橋市西八町板新道

## 中村屋樂器店

電話 五四七九番  
振替口座名古屋一六八二七番



規格嚴守 ◆ 計量正確

豐橋市萱町

  
參陽堂商店

營業要項  
繪具染料  
工業藥品  
裝飾塗料  
附屬雜貨

取引正實 ◆ 出荷迅速

電話 五一七番  
電略 (三ヨウ) 又ハ (三)  
振替 名古屋五一八三番

合名  
會社



內藤製絲場

內藤耕藏

豐橋市北島町字北島  
電話 二八二五番



大

株式會社

豐橋青果市場

豐橋市南島  
電話二四六一番

大

豐橋食料加工株式會社

食料品加工部  
冷藏部

豐橋市船町

乾物穀物  
雜穀詰  
卸商

加藤發太郎商店

電話二四二二番  
振替東京一二八四一番  
電略(カトウ)又ハ(カ)



◆千代田生命豊橋代理店

豊橋市魚町一〇三



鯉節  
味噌  
醤油

田中田新商店

電話

五二〇〇一〇番  
二〇〇二七番  
五〇〇一〇番

營業部  
醸造場  
家事用

振替口座名古屋一九〇一七番

◆千代田火災豊橋代理店

豊橋市東小田原町

米穀商



内山商店

電話

二六一八番  
五一六二番



營業品目

眞綿各種  
絹綿各種  
吹留加工品一般

御申込次第  
商品見本進呈



# 豊橋絹綿株式會社

豊橋市吉田町十七番地  
電話 四八一六番  
振替名古屋四六〇〇五番

鑄造・鍛造・機械工作・電氣鑄鋼  
航空機部品及ゲージ・工作機・工匠具

製作販賣

株式會社

# トミタ機械製作所

工場 名古屋市昭和區堀田通り四丁目  
電話一五三四番・二二五九番  
豊橋市牟呂町字中西八ノ八  
電話 四二〇六番  
豊橋市(驛前)石塚町三八  
電話二九二三番・三九八七番  
濱松市尾張町二丁目  
出張所 電話 二二三九番



金銅板  
硝量  
物器子  
衡

**岩**

岩田屋本店

豐橋市本町

電話  
三三四三五番  
振替  
東京三〇七番  
名古屋二八四二番

肥料  
肥料

榊屋商店

磯村彌八

豐橋市下地町  
電話  
三三〇六九番



高級★日本石綿煙突

豐橋市守下町四五

日本石綿煙突豐橋工場

電話三〇五七番

★創業明治四十四年

豐橋市魚町一〇七番地

會社合併仲介  
有價證券仲買人

服部泰吉商店

長電話 { 二三三〇番  
二九一五番



杉 杉  
杓 杓  
◇明装天井板發賣元

# 山崎材木店

山崎國會

豐橋市船町大通り  
電話三〇五三番

再製絹絲  
再製ガス絲  
製造業  
小川工場

小川鹿三

工場 豐橋市中柴町  
電話五一八〇番  
受信登錄略語(トヨハシオガワ)  
發信略語(オ)(オガ)又ハ(シカ)  
振替口座名古屋 三六七三四番  
本宅 豐橋市花田町東郷  
電話三四八六番



★現下ノ非常時局ニ國策ニ順應シテ賣出シ申候  
多少ニ拘ラズ御買上ノ程願上候

一、新**護國羊甘** 黒糖アクヌキ 精上製 一本 貳拾錢

★國策ニ順應シテ白砂糖ヨリ黒糖へ轉向セヨ!

一、軍都名産 登録商標 **防諜まんぢう** 五個包 拾錢

一、**ま** **川** 一本 拾五錢

## 菓子舗 三河屋清園

電話二五五五番

本店 豊橋市曲尺手町  
支店 同 市神明町角



- 一、本會議所は商工會議所事務権限に準據して經營するものであるから、商工業に關する各種の御意見等は何事に依らず申出でられたい。
  - 一、商品の産額・集散額・運輸交通及び金融状態等時々御報道を煩したい。
  - 一、商工業の状況・調査材料蒐集等の爲め、本所員訪問の際又は書面で照會した節は特に御便宜を與へられたい。
  - 一、諸會社・組合等で業務報告書御作製の節は其の都度御寄附ありたい。
  - 一、商工業家各位で本會議所の照會・紹介又は證明書を要せらるゝ場合は御遠慮なく御申出されたい。
  - 一、商工業に關して紛議を生じた場合は御申出により仲裁判斷或は調停和解の勞を採りま
- 本會議所には各方面から寄贈に係る商工業に關する有益なる圖書の備付があるから、執務時間中は何時でも閱覽に供します。

豊橋商工會議所





### 商工會議所の機能

- 一、商工業に関する通報をする事
- 二、商工業に関する仲介又は斡旋をする事
- 三、商工業に関する調停又は仲裁をする事
- 四、商工業に関する證明又は鑑定をする事
- 五、商工業に関する統計の調査及び編纂をする事
- 六、商工業に関する營造物の設置及び管理をする事
- 七、其の他商工業の改善を圖るに必要なる施設をする事
- 八、商工會議所は商工業に関する事項に付行政廳に建議する事
- 九、商工會議所は行政廳の諮問に對し答申する事
- 十、行政廳は商工會議所に對し商工業に関する事項の調査を命ずる事を得
- 十一、商工會議所は商工業者に對し商工業に関する統計其の他の調査を爲すため必要なる資料の提出を求むる事を得

### 豊橋商工案内目次

總	説	一
財	沿革・地勢・富力・隣接町村・其の他統計	八
	政	
	市有財産・市債・市豫算・前年度との比較・主なる歳入出・負擔額・事業・關係統計	
商	工業	二元
	重要物産・工業施設と農業方面・商業と資本の活動・業態調査(三)・金融と勞働賃金・豊橋商工會議所沿革(五三)	



調査統計

主要物産(七〇)・玉絲産額(七二)・生絲産額(七三)・麻真田産額(七四)・豊橋生繭取引市場取引高(七五)・豊橋倉庫出入貨物(七六)・豊橋市酒類査定高(七七)・豊橋市織物査定高(七八)・豊橋市炭酸瓦斯含有清涼飲料水移出高(七九)・物價と勞銀(八〇)・豊橋市内組合銀行營業概況(八一)・瓦斯(八二)・豊橋米穀取引所取引概況(八三)・實米取引高(八四)・豊橋乾繭取引所銘柄別清算取引賣買數量(八五)・市内投宿人員(八六)

個人營業收益種類別表

第三種所得種類別表

交通と通信

交通施設・市民經濟・都市の膨脹・通信狀況・産業生活の充實・其他統計

宗教・教育

教育機關・學級數と兒童數・秀才教育施設・宗教心の陶冶・神社と寺院・古建築

社會事業

研究調査項目・社會的疾患・都市改良の根本義・共同責任の觀念

土木衛生

地方開發・都市計畫

名所舊蹟

今橋城・戸田今川の争闘・家康と織田氏・城主の交代・最後の藩主・吉田城趾・仁連木城・其の來歴と宗光・重貞の戦死・天正の戦・康長の戦功・豊川の清流・古名の色々・橋梁移轉・地子御免・貨物の運上・舊幕時代の湊



豊橋名代行事

笹踊・煙火・鬼祭

附近町村を探ねて

豊川・鳳來寺・田口鐵道沿線・豊橋以西・豊橋以東・渥美電鐵沿線・八名方面  
ハイキングコース

市内諸會社

商工業者人名

附 録

豊橋商工業案内

總 説

沿革—地勢—氣象—富力—隣接町村—其他統計

豊橋市はもと吉田の宿と呼ばれ、東海道五十三次の一として名高かつた。種々異説はあるが、「吉田通れば三階から招く、しかも鹿の子の振袖が」といふ俗語は此の地から發生したものと云はれてゐる。明治二年六月豊橋と改稱、明治二十二年初めて自治制を實施され、明治三十九年八月市制施行地となつた。

思ふに、吉田と呼んだ頃の戸口は一體どの位有つたであらうかと言ふに、昔から吉田の二十四ヶ町と言つて徳川三百年の間に變りの無かつた如く、戸數にも左程の増減を見なかつた。貞亨五年に一千戸のものが、寛永七年に二千十戸、寶政十年に一千二百戸と言ふ狀況である。尤も此の以前即ち寛永四年に大地震があつて、總戸數二千十戸の内、全潰戸數二百十戸、半潰戸數二百六十六戸で、外に死者十一人も出した事であるからだとすると、極めて其の増加率の少なかつたのは事實である。随つて人口も亦弘化元年に男女合せて五千五百四十五人、其の翌年には十人を減じ、嘉永元年に至つて五千五百十九人と言ふ數字を示して居る。然るに明治二十二年初めて自治制を實施された當時には、今の豊橋の區域は豊橋町・豊橋村



・花田村・豊岡村の一町三ヶ村であつた。其の内豊橋町に屬する戸數は三千五百九十七戸、人口一萬二千三百三十九人を算し、次いで明治二十八年一月に豊橋町と豊橋村の合併が行はれ、明治三十九年七月更に花田・豊岡の二村も之れに合併し、續いて同年八月市制施行地となつたのであるが、當時の戸數は九千九百戸、人口三萬七千六百三十五人であつたが、明治四十一年十一月第十五師團の設置により著しく膨脹し翌四十二年には戸數一萬一千七百五十九戸、人口四萬四千六百八十七人となり、大正九年の國勢調査では人口六萬五千六百三十三人であつたのが、五年後の大正十四年に於ける中間國勢調査では八萬二千三百七十一人、昭和五年十月の第二回國勢調査には九萬八千五百五十五人を數ふるの狀態に至つた。其の後師團廢止も大なる影響なく、蠶絲業の著しい發達に依り益々發展の趨勢を示した。

更に昭和七年九月一日より、隣接町村寶飯郡下地町・渥美郡高師村・牟呂吉田村・八名郡下川村・石巻村大字多米を合併し、茲に人口十四萬を擁する大豊橋市が實現するに至つた。

斯くて我が豊橋市は三河の東南に位し今や北は寶飯郡豊川町・牛久保町・小坂井町、東は八名郡石巻村・静岡縣知波多村・渥美郡二川町、南は渥美郡高豊村・老津村等に境を接し、西は渥美灣に面してゐる。位置は東徑百三十七度二十三分三十秒、北緯三十四度四十五分四十秒である。地勢は概ね平坦であるが、一般的に言へば、東部より西部へ傾斜し、東西及び南北の距離は共に夫々三里二十餘町、總面積六・八一一方里を有し、東三平野樞要の地點を占めてゐる。地質は豊川に沿ふた市の低地は概して沖積層であるが市街の大部分は高地で多くは古生層である。氣象は其の年によつて多少の差はあるが、夏は大して暑くな

く、又冬も降雪・結氷を見るは極めて稀であつて、年内を通ずると天氣晴朗・寒暑中和の天恵に富み、全國有數の健康地である。

我が豊橋市は左の町にわかれてゐる。

船町、湊町、上傳馬町、松葉町、萱町、指笠町、三浦町、花園町、新錢町、魚町、清水町、神明町、手間町、紺屋町、吉屋町、東八町、中八町、西八町、關屋町、本町、札木町、吳服町、曲尺手町、鍛冶町、下町、岩崎町、岩田町、飯村町、三ノ輪町、瓦町、東田町、旭町、飽海町、東新町、西新町、談合町、中世古町、新川町、中柴町、向山町、向山臺町、向山西町、向山大池町、前田町、西ノ又町、舟原町、小堰町、吉田町、前田南町、花田町、東小田原町、西小田原町、松坂町、多米町、北島町、藤並町、高田町、濱道町、天伯町、畑ヶ田町、高師本郷町、三本木町、上野町、二本松町、高船町、西浦町、荻原町、高師町、岩屋町、西口町、佐藤町、牧野町、北山町、小松町、山田町、東小池町、鎌田町、堂浦町、柳生町、小池町、高師石塚町、町畑町、北丘町、富本町、南榮町、橋良町、小濱町、王ヶ崎町、中野町、草間町、一色町、向草間町、松井町、磯邊下地町、駒形町、大山町、船渡町、大崎町、植田町、大清水町、野依町、南小池町、福岡町、菰口町、野田町、三ツ相町、吉川町、馬見塚町、高洲町、小向町、新榮町、富久竊町、青竹町、吉前町、往完町、牟呂町、神野新田町、下地町、大村町、長瀬町、横須賀町、川崎町、清須町、下五井町、瓜郷町、牛川町、下條西町、下條東町

以上百二十八ヶ町を通じて、本年三月末現在總戸數は二萬七千四百七十九戸、人口十四萬七千八百三十三人に達してゐるが、戸口とも益々増加せんとする趨勢を示してゐる。

由來東三河と稱するのは、豊橋市を中心として、渥美・八名・寶飯・南設樂・北設樂の一市五郡を言ふので、豊橋の接續町村は渥美郡二川町・高豊村・老津村・寶飯郡豊川町・牛久保町・小坂井町・前芝村・八名郡石巻村である。



豐橋市面積戶數及人口

種別	昭和十三年末		昭和十二年末	
	面積	人口	面積	人口
積	六・八一一方里	二七、四三一戸	六・八一一方里	二七、二七九戸
男	六九、二〇二人	六八、〇八一人	六八、〇八一人	六八、〇八一人
女	七八、二五〇	七七、五〇八	七七、五〇八	七七、五〇八
計	一四七、四五二	一四七、四五二	一四五、五八九	一四五、五八九

豐橋市有租地

地目	昭和十三年		昭和十二年	
	面積	賃貸價格	面積	賃貸價格
田	二、四三七・八二畝	四九五、八二四円	二、四三七・八二畝	七一〇、三六八円
畑	二、三七五・五七	二六四、五二五	二、三七四・五四	三八八、三四六
宅地	二、四五五、三一八坪	一、五二五、四三六	二、四五五、四七八坪	一、六五四、八〇四
鹽田	二〇畝	四	二〇畝	四
山林	六八四・三四	六、八一二	六八四・三九	八、九七一
原野	一七六・九二	一、二八九	一七六・九四	一、六一〇

雜種地	昭和十三年		昭和十二年	
	面積	賃貸價格	面積	賃貸價格
池沼	六・三二	二〇七	六・三二	四一三
計	九八・〇三	九、三三〇	九八・〇二	一三、五〇四
計	二、三三〇、四二七		二、七七八、〇二〇	

豐橋市無租地

種別	昭和十三年		昭和十二年	
	面積	賃貸價格	面積	賃貸價格
公立學校敷地	四三・〇一畝		四三・一四畝	
私立學校敷地	・六〇		・六一	
鄉村社地	三・三三		三・三三	
墳墓	一三・八八		一三・八七	
火葬場敷地	・五六		・五六	
用水池路	一四・四三		一四・四四	
溜池沼	九三・三七		九三・三六	
堤塘	・九三		・一四	
井溝	四五・二二		四五・二一	
軌道用地	二・五五		二・五五	
計	二、三三〇、四二七		二、七七八、〇二〇	



鐵道用地  
 鐵道安林路  
 保安林  
 公園敷地  
 市役所敷地  
 警察署敷地  
 傳染病院敷地  
 蠶業取締所用敷地  
 蠶業試驗場敷地  
 診療所敷地  
 圖書館敷地  
 斃獸埋沒場  
 屠場敷地  
 其の敷地  
 水道敷地  
 病院敷地  
 忠魂碑敷地

一七・五九  
 一九・三一  
 一四・一九  
 四・三五  
 三・三五  
 二・二一  
 二・二一  
 三・三一  
 四・六  
 二・一  
 二・〇七  
 七・六二  
 一・四一

一七・五八  
 一九・三〇  
 一四・二〇  
 四・三五  
 三・三五  
 二・二一  
 三・三六  
 三・三  
 一・九  
 四・五  
 〇・四  
 二・〇  
 七・二九  
 一・四一  
 〇・四

鹽除溜  
 教員住宅敷地  
 下水道用地  
 繭檢定所敷地  
 公會堂敷地  
 動物園敷地  
 府縣社地  
 幼稚園敷地  
 高山病院少年保護所敷地  
 散策公園敷地

六六・八  
 一・四〇  
 一・五  
 二・八七  
 一・九  
 〇・九  
 五五・二二

〇・九  
 一・一  
 三・九  
 一・〇  
 一・五  
 二・八七  
 一・九  
 〇・九  
 五五・二二



# 財政

市有財産—市債—市豫算—前年度との比較—主なる歳入出—  
 負擔額—事業—關係統計

豊橋市の市有財産は土地・建物・渡船・有價證券及び現金に分類せられてゐるが、現金有價證券及び渡船の額は極めて少い。之れに反し市債は比較的多く、本年度始め市債未償還額總計は六百七十七萬七千三百七十四圓五十四錢である。之れを三月末の總戸數二萬七千四百七十九戸並に人口十四萬七千八百十三人で除すれば、一戸當り二百四十六圓六十四錢、一人當り四十五圓八十五錢の負擔となる。

當市に於ける昭和十四年度歳入出豫算は金百九十二萬二千七百九十五圓で、之れを前年度に比較すると總豫算高に於て三十一萬七千二百九十七圓の増加である。歳入の主なるものは言ふまでもなく、四割餘を占むる市税である。試みに最近の市税を調べて見ると、昭和十一年度金八十四萬四千五百八十七圓、同十二年度金八十四萬二千九百六十六圓、十三年度金八十二萬三千三百五十四圓、而して十四年度豫算高は金八十三萬三千十三圓であるが、之れを細別すると

地租附加税	金七萬一千七百十五圓
特別地稅附加税	金六千九百七十四圓
營業收益稅附加税	金九萬一千二百五十四圓

所得稅附加税	金二萬五千四百〇一圓
取引所營業稅附加税	金五圓
縣稅家屋稅附加税	金三十九萬七千十四圓
同營業稅附加税	金一萬三千五百圓
同雜種稅附加税	金二十二萬七千五百十圓

の割合になつて居る。而して昭和十三年末に調査した豊橋市の戸數は二萬七千四百三十一戸、人口十四萬七千四百五十二人であるから、十三年度の負擔額は一戸三十圓三十六錢、一人平均五圓六十四錢に當る。次に歳出方面で主なるものは、經常部の小學校費金三十八萬七千百十六圓、役所費金十五萬七千九百一十圓が多く、臨時部では公債費金四十一萬四千二百十二圓、土木費金二十八萬一千三十七圓等である。

## 豊橋市財産表 (昭和十三年十二月末現在)

1、土地	
役所敷地(含出張所敷地)	三、七一八
學校敷地	三三四、七四二
市立病院同分院及消毒所並避難會敷地	二四、八〇八
圖書館敷地	一
公會堂敷地	五、一〇〇
屠場敷地	二、〇一七
動物園敷地	二八、七一九
火葬場敷地	八、二一二
用惡水路	一四七、五一八
溜池	五八三、八〇七



外共有地	七、八二二	池沼	一、四〇七
市立高山病院少年保護所	一五一、八四六	忠魂碑敷	二、三二四
散策公園敷地	四〇六、二二二	宅地	一六、〇五三 <sup>反</sup>
墳墓	三八、七〇五	田	五七、七三三 <sup>反</sup>
畜屍埋沒地	一、〇二五	畑	九、三四七
下水道用地	一三、一〇七	雜地	六五、八九七
水道用地	八一、六一四		

2、建物

市役所建物(含出張所建物)	五五八、七五〇	公設市場建物	二七二、六五〇 <sup>坪</sup>
學校建物	一八、〇七三・八〇九	公益質屋建物	四七、七五〇
市立病院同分院及消毒所	一、四三三・一五五	診療所建物	七七、三七〇
並避難病舎建物	一二六、六〇〇	職業紹介所建物	六二、〇〇〇
圖書館建物	三五六、七五〇	公共便所建物	二一、〇〇〇
公會堂建物	一二六、五〇〇	動物園內建物	一四二、五〇〇
屠場建物	六〇〇、一一〇	墓地事務所建物	八、〇〇〇
高山病院建物	二二二、二九〇	消防署及唧筒置場建物	三一、七三〇
火葬場建物			

巡查駐在所建物	一二六、一四〇	下水道處分場內建物	二八四、四九〇
水道給水場建物	一二、二五〇	水道送水場建物	一一三、二八〇
登記所建物	四六、〇〇〇	水道淨水場建物	三二六、四〇〇

3、渡船

渡船 四艘

4、有價證券

帝國四分利公債	額面五百圓券	二十枚	金參千五百圓
帝國五分利公債	額面五百圓券	一枚	金壹千圓
愛知縣農工銀行株券	拂込額拾貳圓五拾錢	三十六枚	金壹千九百六拾貳圓五拾錢

5、現金

御下賜金  
 高師小學校御下賜金  
 大崎小學校基本金



市債

市債内譯表 (昭和十四年四月一日現在)

會計別	起債許可額	借入済額	未償還額
一般會計	四、七〇〇、六〇〇円	四、五八二、〇〇〇円	三、九八一、四七四・五四円
特別會計公益質屋費	四三、〇〇〇	四三、〇〇〇	三六、五〇〇・〇〇
同 都市計畫費	一、〇三四、〇〇〇	七一四、〇〇〇	七一四、〇〇〇・〇〇
同 水道費	二、九〇三、二〇〇	二、五九六、二〇〇	一、九三五、三〇〇・〇〇
同 豐橋病院費	一九五、〇〇〇	一九五、〇〇〇	一一〇、一〇〇・〇〇
計	八、八七五、八〇〇	八、一三〇、二〇〇	六、七七七、三七四・五四

許可債借入未済額 (昭和十四年四月一日現在)

起債ノ目的	昭和十三年度分	會計
災害復舊費	九三、六〇〇円	一般會計
豐橋港修築費	一一、〇〇〇	同
第二期都市計畫街路築造費	三〇三、〇〇〇	特別會計 都市計畫費

豐橋市都市計畫特別稅負擔額

科目	昭和十三年度	昭和十二年度
地租割	七、一七三円	八、六〇二円
特別地稅	四一〇	五四九
營業收益稅割	二二、四一八	一八、五〇三
家屋稅	三二、三二八	三二、一三三
營業稅	四、三二〇	四、七五九
雜種稅	五四、九三六	五二、九三九
合計	一一一、五八五	一一七、四八五

豐橋市歲入出豫算

科目	昭和十四年度	昭和十三年度
財產ヨリ生ズル收入	九、四〇四円	九、三八五円
使用料及手數料	一九二、一一五	一八一、一四九
交附金	三五、六七七	三二、三一六
入		一三



下賜金 三七一  
 國庫下渡金 八四、七五二  
 報償金 一四、九六〇  
 補給金 一六、六五二  
 國庫補助金 二三、〇六八  
 縣補助金 二五、〇九三  
 寄附金 一五、〇六二  
 負擔金 一五二、七三五  
 繰越金 一  
 雜收入 五七、八〇四  
 市稅 八三三、〇一三  
 市債 三二三、三〇〇  
 財產賣拂代金 六、〇〇〇  
 都市計劃特別稅 一三二、七八八  
 貸付償還金 一、九三三、七九五

昭和三十四年度  
 二、一四四四  
 一〇、〇七一  
 六七〇  
 一五七、九一一  
 三一、八三九  
 五三、六三九  
 五一、〇〇五  
 二、六〇二  
 三八七、一一六  
 一七、八二九  
 三七、二〇七  
 五、二八三  
 八、七四二

昭和三十三年度  
 二、一八六四  
 九、九七八  
 四八七  
 一四八、八七七  
 三二、三八一  
 五一、六五一  
 五一、四〇三  
 二、六一七  
 三八一、〇一一  
 一四、一四四  
 三六、一二八  
 六、二七一  
 八、六四〇

神會社費 二、一四四四  
 會議費 一〇、〇七一  
 役所費 六七〇  
 土木費 一五七、九一一  
 商業學校費 三一、八三九  
 高等女學校費 五三、六三九  
 商業專修學校費 五一、〇〇五  
 小學費 二、六〇二  
 女子商業學校費 三八七、一一六  
 青年學校費 一七、八二九  
 圖書館費 三七、二〇七  
 學事諸費 五、二八三  
 八、七四二

昭和三十四年度  
 二、一四四四  
 一〇、〇七一  
 六七〇  
 一五七、九一一  
 三一、八三九  
 五三、六三九  
 五一、〇〇五  
 二、六〇二  
 三八七、一一六  
 一七、八二九  
 三七、二〇七  
 五、二八三  
 八、七四二

昭和三十三年度  
 二、一八六四  
 九、九七八  
 四八七  
 一四八、八七七  
 三二、三八一  
 五一、六五一  
 五一、四〇三  
 二、六一七  
 三八一、〇一一  
 一四、一四四  
 三六、一二八  
 六、二七一  
 八、六四〇



傳染病豫防費	二、七五五	三、〇五一
市立豐橋病院分院費	六、二〇一	六、一四〇
市立高山病院費	二八、七三六	二九、〇三六
消毒所費	一八〇	一八八
汚物掃除費	九、四八八	八、九四三
衛生諸費	三、六六六	三、〇五八
屠場費	一、二七一	一、一三二
公園費	四、九六八	五、四八八
墓地費	三八三	三八九
火葬場費	五、一六〇	五、一六二
勸業諸費	一一、一一八	一六、一八四
下水道費	三二、六八九	四五、五一〇
統計費	二、一四〇	二、六〇七
社會事業費	七七五	九九一
救護費	一七、三七六	二一、〇八一
職業紹介所費		三、二二三
診療所費		一六一

市場費	二、一八五	三、八七三
公會堂費	三、二九六	四、二四六
警備費	二四、三八六	一九、六四三
基本財産造成費	二七六	二六六
財産費	六、三二五	四、〇八九
諸稅及負擔	二、二四一	二、三四八
公金取扱費	五、五六二	四、九七六
表彰費	一	一
諸給與金	二三、四八六	
雜支	一二、一一三	一二、一一三
母子保護費	一三、四八六	一一、七八五
豫備費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
經常部計	九九六、三二一	九七一、四五八

歲

臨時部



科目

選舉費  
土木費  
土地區劃整理助成費  
納稅獎勵費  
公債費  
補助費  
補給費  
繰入金費  
調查費  
積立費  
勞働統計費  
訴訟費  
市史編纂費  
小學校營繕費  
商業學校營繕費  
市場改築費

昭和十四年度

二、〇一六  
二八一、〇三七  
一、八五〇  
一三、六六五  
四一四、二一二  
二一、五〇〇  
九、一六一  
二九三  
七九〇  
五  
六九、二〇〇  
一、四三〇

昭和十三年度

九、五三八  
二、九六五  
一二、一九七  
三八〇、二九八  
一九、三〇〇  
三一、七九四  
一、九七四  
二八五  
一〇

港灣河川調査費  
公園・動物園設備費  
下水道工事費  
豐橋港修築費  
警備費  
助成費  
負擔金  
高等女學校設備費  
女子商業學校設備費  
塵芥焼却所設置費  
防空費  
事變關係諸費  
農地委員會費  
演習場費  
國道改良費負擔金  
本年度支出額  
市廳舍増築費  
小學校營繕費  
本年度支出額

一、〇〇〇  
三、七七〇  
四〇、〇〇〇  
一二、九〇〇  
五、一八三  
二、五〇〇  
四、五〇〇  
七、四三五  
三三、九一五  
二二  
四二〇

二、八〇〇  
五五〇  
二五、〇〇〇  
一一、〇〇〇  
二、〇〇〇  
一一、〇〇〇  
五、一八三  
四一、九五二  
七、一九四  
五、〇〇〇  
七五、〇〇〇



土地購入代分納金  
臨時部計  
歲出合計

九二六、四七四  
一、九三三、七九五

六三四、〇四〇  
一、六〇五、四九八

二〇

豐橋市水道費歲入出豫算

歲入

科目  
使用料及手數料  
工費收入  
補助金  
繰入金  
市債  
雜收入  
繰越金  
合計

昭和十四年度  
一三八、六八五円  
二七、四三二  
二四、〇〇〇  
一、九三五、三〇〇  
二、一〇〇  
二六五  
二、二七、七八二

昭和十三年度  
一二九、二二七円  
一八、七四六  
二二、〇〇〇  
一、九八六  
一  
一七一、九六〇

歲出

經常部

科目  
事務費  
給水費  
機械器具費  
維持費  
財產費  
雜支費  
豫備費  
經常部計

昭和十四年度  
二六、六四七円  
一一、三〇九  
一九七  
一五、九一六  
五七  
二  
一、〇〇〇  
五五、一二八

昭和十三年度  
二六、〇六二円  
一一、六〇三  
二〇一  
一四、四九七  
五七  
二  
一、〇〇〇  
五三、四二二

歲出

臨時部

科目  
公道地下細管敷設費  
公債費

昭和十四年度  
二〇、五三、七〇二

昭和十三年度  
一〇五、五二六

二一



委託工事費  
臨時部計  
歲出合計

昭和三十四年度  
一、二、六八七  
二、〇七二、六五四  
二、一、二七、七八二

昭和三十三年度  
一〇六、七一九  
一一七、五八八  
一七一、〇一〇

豐橋都市計畫街路築造費豫算

科 目  
負擔金  
雜收  
市債  
線入  
歲入合計

昭和三十四年度  
四一、六七六円  
一、〇〇〇  
四四、〇〇〇  
八六、六七六

昭和三十三年度  
四一、〇〇〇円  
一、〇〇〇  
三三〇、〇〇〇  
三、〇三三

臨時部  
歲出合計

昭和三十四年度  
八六、六七六

昭和三十三年度  
三、〇三三  
三、七四、〇三三

第二期街路築造繼續費  
本年度支出額  
歲出合計

昭和三十四年度  
八六、六七六円  
八六、六七六

昭和三十三年度  
三、七四、〇三三  
三、七四、〇三三

豐橋市兒童就學費豫算

科 目  
資金  
交附  
線入  
線越  
合計

昭和三十四年度  
一、一二五  
三、六六一  
七八  
四、八六四

昭和三十三年度  
一、一二五  
三、九六一  
七八  
五、一六四

科 目  
就學獎勵費  
合計

昭和三十四年度  
四、八六四円  
四、八六四

昭和三十三年度  
五、一六四円  
五、一六四

豐橋市公益質屋賃歲入出豫算

科 目  
質屋賃收入  
歲入

昭和三十四年度  
六六、七九九円

昭和三十三年度  
六七、四四〇円



雜收入 一五〇  
 繰入金 二、五〇〇  
 繰入金合計 二七、七二七  
 歳入合計 九七、一七六

科 事務所 費  
 昭和十四年度 二、六六一円  
 昭和十三年度 二、七七八円

運 用 金 費  
 昭和十四年度 九〇、六八一  
 昭和十三年度 九一、五五一

公債 費  
 昭和十四年度 三、六九三円  
 昭和十三年度 三、六七七円

雜收入 一九〇  
 繰入金 三〇、五一七  
 繰入金合計 九八、一四七

科 事務所 費  
 昭和十三年度 二、七七八円

運 用 金 費  
 昭和十三年度 九一、五五一

公債 費  
 昭和十三年度 三、六七七円

豊橋市立豊橋病院費歳入出豫算

臨時部計 三、六九三  
 歳出合計 九七、一七六

科 使用料及手數料  
 昭和十四年度 一一四、一二二円  
 昭和十三年度 九八、五七五円

繰越金 一一、五二七  
 雑収入 六、七一八  
 繰入金合計 一一〇、一〇〇

市債 二四五、四六七  
 歳入合計 二四五、四六七

科 病院費  
 昭和十四年度 一一六、九三一円  
 昭和十三年度 九三、四〇八円

臨時部計 三、六七七  
 歳出合計 九八、一四七

科 使用料及手數料  
 昭和十三年度 九八、五七五円

繰越金 一一、五二七  
 雑収入 六、七一八  
 繰入金合計 一一〇、一〇〇

市債 二四五、四六七  
 歳入合計 二四五、四六七

科 病院費  
 昭和十三年度 九三、四〇八円



公債費	昭和十四年度	一二七、〇三六円
臨時部計		一二七、〇三六
歲出合計		二四五、四六七

昭和十三年度	三五、一九六円
	三五、一九六
	一三〇、一〇四

豐橋市稅負擔額

科	昭和十三年度	七二、九六六円
地租附加稅		四、一四〇
特別地稅附加稅		二二、二二三
所得稅附加稅		九三、八一二
營業收益稅附加稅		一一、九一四
取引所營業稅附加稅		二一四、七〇〇
縣稅營業稅附加稅		三九一、三一五
縣稅雜種稅附加稅		一一、〇
縣稅家屋稅附加稅		八二、〇八〇
合計		八二、〇八〇

昭和十二年度	七五、七一四円
	四、九四四
	一九、八七〇
	七七、四七一
	九
	一三、三五六
	二二、四六四
	三八九、五九〇
	七九三、四一八

豐橋市縣稅負擔額

科	昭和十三年度	九三、二四八円
地租附加稅		六、三三五
特別地稅		七三、五七二
營業收益稅附加稅		九〇、七五四
所得稅附加稅		五
取引所營業稅附加稅		九〇、二三六
家屋稅		一三、八一五
營業稅		一二五、二二五
雜種稅		二、一九六
都市計畫稅特別稅		四九五、三八六
合計		四九五、三八六

昭和十二年度	一一七、八五九円
	五、二五七
	六三、〇三四
	七七、五二八
	九
	八九、六〇八
	一三、三五六
	一二三、一七四
	一、八七九
	四九一、七〇四

豐橋市直接國稅負擔額

科	昭和十三年度	一六、〇一九円
地租		六、五八九
田租		五七、九一三
畑租		
宅地租		

昭和十二年度	二三、〇〇二円
	一一、五七三
	六二、八〇七



地租	計	
	第一種所得税	第二種所得税
六二八	八一、一三九	八七九
二八	一〇四、三五九	九八、二六一
	六〇、六六一	一四五、九二三
	三八二、七八四	六九、六三一
	五四七、八〇四	二六〇、七六〇
	計	四七六、三一四
資本利子税	資本利子税	三九、八〇三
營業收益税	營業收益税	一二八、〇〇三
相續税	相續税	九九、二二八
個人臨時利得税	個人臨時利得税	一七、一七九
法人臨時利得税	法人臨時利得税	二、二二五
法人資本税	法人資本税	一七、五〇三

### 豊橋市間接國税額

科	目	昭和十三年度	昭和十二年度
酒	酒税	一四	一四二、七〇四
	砂糖消費税	三三一、四一一	三二八、二七九
	織物消費税	三一、四九二	一七、五六一
	取引所税	二八、五三四	九、四四七
清凉飲料税	三〇、七八八	三四、六四七	

### 商工業

營業種別—重要物産—工業施設と農業方面—  
商業と資本の活動—金融と労働賃金

我が豊橋市内に於ける各種の營業は、生産者・問屋・小賣業を通じて大體百數十種に區別するを得べく其の内最も主なるものを擧ぐれば

玉絲製造業、生絲製造業、麻真田製造業、繭絲問屋業、繭絲屑物問屋業、再製絹絲業、織詰製造業、材木商、米穀商、肥料商、呉服商、酒類商、味噌醬油商、履物商、菓子商、洋物雜貨商、足袋商、荒物雜貨商、乾物商、薪炭商、運送業、家具商、魚類商、海產物商、鶏卵商、文具具商、糸類商、漁網商、青乾物商等である。

豊橋市を中心とする附近農村の繭の生産高は素晴らしいもので、昨年の生繭の市場出廻高は十八萬八千貫餘、價格金八十二萬六千餘圓、乾繭寄託分七十萬七千貫餘である。製絲業の發展は實に驚くべきもので、就中、玉絲に至つては彼の本場の上州を凌駕し、所謂三州玉絲の特産地として生産高は我が國玉絲總産額の約五割を占め、恰も長野縣諏訪湖畔に於ける生絲業と相並び、本邦製絲工業界の二大中心地として内外に知悉せらるゝ處である。東海道豊橋驛の西南に林立せる煙筒は何れも其の工場であつて、地方の俗諺に『吉田鹿の子と昔は言へど今は玉絲日本』とさへ諺はるゝのである。然し乍ら當市が蠶絲業に於てかゝ



る發展を見た反面、他の工業にこれと並ぶものがないのは當市の最大缺陷であるが、近時郊外南北兩重要施設と相待つて軍需工業も躍進途上にあり、更に他の大工業を移植して多角工業都市を打ち立てることは誠に緊要事である。

豊橋市に於ける最も重要な工業物産としては、第一に玉絲・生絲及繭絲屑物を挙げなければならぬが、之れに次ぐは味噌・醬油・麻真田・漁網・毛筆等であつて、其の中麻真田は我が國産中でも特殊の地位を占め、重要輸出品の一つであつて、外國婦人の夏帽専用の材料で製品の優良なるは本邦八個の組合中群を抜いてゐる。亦毛筆の製造も遠く吉田時代より始まつたもので、日露戦役後急激に發展し、其の産額も今や廣島を凌駕せんとする勢ひを示し、製品の多くは東京方面へ賣捌かれてゐる。

次いで

菓子、酒類、蒲鉾、海苔製品、木竹製品、履物、綿布製品、製綿、清涼飲料、乾物、甘藷、野菜

等も決して見通すことの出来ない物産である。尙右各種の營業に就き工業方面から見れば、纖維工業・機械器具工業・化學工業・食品工業・特殊工業・製作工業・土木建築工業其の他工場數及び職工數も却々多數に上つてゐる。

昭和七年の隣接町村合併のために、當市の主要物産の數量は何れも激増したが、就中農業方面に顯著である。合併前の農家數は八百三十九戸に過ぎなかつたが、最近の調査によると四千八百三十七戸、米の産額の如きは二百三十萬圓餘に達した。更に農産の主なるものとしては米・繭・大麥・小麥・甘藷・大根・瓜類など數へなければなるまい。耕地も激増して、合併前には田一四百三十二町歩、畑一四百一十一町歩な

りしものが、合併直後は田一三千八十三町歩、畑一二千六百九十五町歩となつてゐる。之れが機關としては市農會を最高なるものとして、養蠶組合・家禽購買販賣組合・農業に關す産業組合がある。

然らば現今商工業方面に於ける機關はどうであるかと言ふと、商工會議所・魚市場・青物市場・繭市場・乾繭取引所・全國乾繭倉庫聯合會豊橋出張所・小賣市場・公設市場が設立され、何れも目覺しい活動を續けてゐる。

市内に本店を有する諸會社の數は、本年六月末の調査によると、株式會社一〇八、合名會社一五十一、合資會社一二百五十、合計四百九であつて、市内に本店を有する會社の活動を事業別にすると、鑛業三一、資本金三百六萬圓、工業百十六―資本金七百二十四萬八百五十圓、商業二百五十六―資本金一千六十二萬九千五百圓、運輸及倉庫業二十五―資本金一千四百七十二萬九千圓、其の他九―資本金六十三萬二千五百圓、總資本金額三千六百二十九萬一千四百圓（拂込二千四百二十一萬二百圓）である。是れ等の會社は我が豊橋の産業界のために直接間接多大の利益を齎らしてゐることは言ふまでもないけれど、前述の狀況から觀察するときは未だ豊橋に於ける資本の活動は甚だ微弱なるを感ずると共に、吾人は將來我が事業界・産業界のために大いに研究を費さなければなるまいと思ふ。尙之れに直接重要な關係を有する金融界の狀況は、大野銀行・愛知銀行・名古屋銀行・日本貯蓄銀行・愛知縣農工銀行・第一銀行・不動貯金銀行・岡崎貯蓄銀行の各支店銀行により支配されてゐる。此の外信用組合・金錢貸付業・質屋業・無盡業等數種の機關があつて、商工業者及び勞働者のために便益を與へてゐる。

因に市内の各勞働賃金は他の都市と比較して見ると餘り高い方ではない。



## 業態調査

三二

日支事變勃發以來政府は各般に亘り聖戰目的貫徹に適合せしめる爲め、急速に各種の施設を講じて國防産業及び基礎産業の振興擴充を圖り國防經濟の確立に努めて來たが、更に事變が長期化すると共に最近では國家總動員態勢を整へ、諸般の經濟統制も益々徹底強化せんとして居る。生産部門に・配給部門に・金融部門に・あらゆる産業部門に一大變革を齎らし、自由經濟より計畫經濟へ、平和産業より時局産業へと轉換しつゝあり、戰時重要物資の使用制限・一般民需品の製造販賣の制限・重要物資の配給統制・低物價政策の遂行・各種組合の設立懲慫等により、其の犠牲となりつゝある中小商工業者に對し保護改善を圖り物資の配給統制及び價格統制遂行上卸小賣業者の免許制をも斷行せんとし、政府に於ても目下具體案を考究してゐる模様である。

斯くの如く變化絶え間ない産業界の渦中にある中小商工業者の現状は如何、業態各般に亘る盛衰と業者數の増減は如何、昭和十年六月一日に行つた第一回業態調査と比較して如何なる變化を齎らしつゝあるか當市に於ける商工業の發展は如何なる方向へ進展しつゝあるか等を知る爲めに、今回第二回業態調査を實施したのである。尙今回の調査は前回の調査要領に基いて行つたが、調査上若干の補訂を加へて行つたが其の調査要領を略述して調査結果の解析的検討を述べて見よう。時あだかも轉業問題の喧しい折柄、此の調査が幾分たりとも何等かの方面へ貢獻し得るならば望外の幸甚である。

### 一、調査目的

今回の調査目的は、前述に於て其の大半を述べ盡して居るから御賢察を願ふこととして省略しておくことにした。

### 二、調査の對象と分類

人口を基礎とした國勢調査と異り左表の如く營業・職業本位に戸口(世帯)數を基礎として調査した。

一、主對象	1、商業經營戶數
	2、工業經營戶數
	3、商工補助業戶數
二、副對象	1、農業・漁業・林業戶數
	2、俸給生活者・労働者數
	3、非經營體戶數
	4、倉庫・物置・空家戶數

先づ全業態を前回の調査業態分類表に基き、物品販賣業と特殊商工業其の他の二大分類をなし、物品販賣業を(一)飲食品關係、(二)衣服・裝身具品關係、(三)什器・機械器具及建築材料關係、(四)其の他關係の四項目に類別し、更に五十一種に中分類し、又百五十三種に細分類をした。特殊商工業其の他に於ては(一)製造加工業(二)特殊商工業(三)其の他とに分類し、更に五十八種に中分類し、更に百六十一種に細分類し、幾分前回の調査分類を補訂した。

三三



### 三、調査項目

各戸口毎に左記事項を調査した。

- イ、氏名・商號・電話
  - ロ、所在地
  - ハ、業態名(本業・兼業をも調査す)
  - ニ、經營形態(小賣・卸・製造小賣・製造卸・問屋・修繕・加工の區別)
  - ホ、主要取扱商品名
  - ヘ、店員・事務員・従業員(男女)の數
- 今回は最近特に商店員其他従業員の拂底を告げて居る現狀に鑑み、市内の従業員數を男女別に調査した。但し藝娼妓・女給・女中等の調査は之れを除いた。

### 四、調査地域

調査地域は十二校區で、戸數二萬三千九百九十六戸であつて、郊外の農村地帯約五千戸は調査しなかつた。調査は各校區を町惣代別に區分し、更に組に細分して細胞的に行つた。尙各組別に調査家屋の見取圖を作製せしめて調査上の脱漏を極力防いだ。殊に近年著しい發展を爲しつつある吉田方校區内、菰口方面(三百七十七戸)を今回新しく調査區域に編入したから特に注意して置きたい。

### 五、調査の時と方法

前回の調査日が昭和十年六月一日であつた關係上、今回の調査も六月一日を期して前述の十二校區を調査した。前回の調査日から數へると滿四ヶ年を経過して居る譯である。尙調査の完璧を期する爲めに、半月前の五月十五日頃より準備調査を行つた。調査當日は當會議所議員・職員・豊橋市立商業學校教諭の四十三名は指導員となり、同校生徒六百八十名は調査カードを手にして戸別訪問的に調査した。次の本論に於て調査の結果を検討し、詳細を説明して見よう。

#### 1、業態總數

本調査の實施日たる昭和十四年六月一日現在に於ける豊橋市の全戸數は、當市市役所の統計に依れば二萬七千四百八十戸である。此の内郊外農村地帯は調査しなかつたから、此の部分(約四千戸)を除いての調査總戸數は次の通りである。

【第一表】

種別	昭和十四年		昭和十年		増減
	戸數	關係	戸數	關係	
イ、飲食品關係	二、〇〇八	△	二、〇六五	△	五七戸
ロ、衣服・裝身具關係	九八三	△	一、〇二八	△	四五
ハ、什器・機械器具・建築材料關係	一、三二九	△	一、二九九	△	三〇
ニ、其他物品販賣關係	七七一	△	七二一	△	五〇
合 計	五、〇九一	△	五、一三三	△	三三





特 殊 工 業	イ、製造加工業	一、五四八	一、三二二	二、三六
商 工 業	ロ、特殊商業	二、七六三	二、八四六	△ 八三
其 他	ハ、其他	一、〇七八	一〇、六三〇	一、四四八
合 計		一六、三八九	一四、七九八	一、五九一
總 計		二一、四八〇	一九、九一一	一、五六九
倉庫及建築物		六八一	(前回は調査せず)	
空一家及建築中のもの		一、〇三五	一、四七五	△ 四四〇

三六

右表に依れば我が豊橋市は空家・倉庫・物置の千七百十六戸を除いた總戸数は二萬一千四百八十戸にして、四年前の調査戸數一萬九千九百一十一戸に比して一千五百六十九戸を増加して居る。尤も此の内には今回新たに調査區域に編入した吉田方校區の三百七十七戸を差引いても一千一百九十二戸の激増である。物品販賣業戸數は五千九百一十一戸にして、前回調査戸數に比し二十二戸を減じて居る。此れは小賣商に時局統制經濟の強化が反映して減少の一路を辿りつゝある譯である。物品販賣戸數五千九百一十一戸を總戸數二萬一千四百八十戸に對比すれば四・二に對し一の割合即ち四戸に對し一戸の物品販賣業者が存在することになる。豊橋市の人口約十四萬人(未調査區の人口を除く)に對比すれば、物品販賣業一軒に對し約二十九人の客を有することになつて居る。之れを東京市の三十六人、横濱市の三十三人、神戸市の三十九人、長崎市の四十一人、廣島市の三十人に對比すれば、我が豊橋市が人口に比して物品販賣業者が未だ多い譯で、従つて商賣上の競争も相當激しく、商業經營上研究すべき都市ではないかとの推論が得られる。尤も各都市の調査時が異つて居るから嚴密な比較は出來ないが、大體の傾向を知ることが出来る。

特殊商工業戸數は四千三百一十一戸にして、前回の其れと比較すれば百四十三戸の増加である。其の内製造加工業戸數は二百二十六戸の増加で、時局を反映して生産力擴充の國策線に添つた工業の勃興を示すものではないかと思はれる。製造加工業總數は一千五百四十八戸で、之れを本調査による總戸數二萬一千八百四十戸に比すれば一三・八に對し一の割合である。此の内工場法の適用を受けて居るものは四百四十一戸にて、我が豊橋市の工業生産が極めて多數の小規模生産者若くは家内工業家の活動に依存して居る譯である。

更に消費階級とも見るべき非經營體戸數(勞働者・職人・俸給生活者・醫師・内職生活者・無職・其他)は一萬二千七十八戸にして全戸數に對して五割六分を占めて居り、前回調査に比較すれば一千四百四十八戸の素晴らしい増加であり、其の内俸給生活者の著しい増加(七四二戸)が其の大部分を占めて居る。尙物品販賣業戸數と特殊商工業戸數との合計即ち經營體の戸數九千四百二戸に對し、非經營體の戸數一萬二千七十八戸を比較すれば、非經營體戸數が二千六百七十六戸も多い。此の點より見れば我が豊橋市が從來から消費都市と稱せられた所亦自ら首肯されねばならぬ。

今回の調査に依れば空家の戸數は一千三十五戸にして、前回調査の戸數一千四百七十五戸に比し四百四十戸の減少を示して居るが、我が豊橋市が此の四年間に如何に著しい發展をなしたかが解る。第二表「校區別に見た空家の數」を一覽すれば空家の最も少いのが新川校區で、校區全戸數三千四百四十二戸に對し空家の存在する割合は三分二厘である。空家の最も多いのが下地校區の六分四厘である。尙前回調査に比して空家の最も減少した校區は松山校區と花田校區であつて、當市の發展方向の一端を知る事が出来る。



【第二表】

校 區	前年度空家數	本年度空家數	總 戶 數	總戶數に對する率
東 田 校 區	一八七戸	一四一戸	二、五九四戸	五・四
八 町 校 區	一六七	一四七	二、七八七	五・三
新 川 校 區	二一五	一一一	三、四四二	三・二
狹 間 校 區	八〇	七九	一、六五七	四・八
松 山 校 區	一七三	八五	二、二〇〇	三・九
松 葉 校 區	二四四	一七三	三、二二五	五・四
花 田 校 區	一五九	八六	二、〇一四	四・三
羽 根 井 校 區	一七	九八	二、一四五	四・六
下 地 校 區	六三	五一	七九五	六・四
牟 呂 校 區	一	二	一九二	一・〇
福 岡 校 區	七〇	五八	一、七六七	三・三
吉 田 方 校 區	不明	四	三七七	一・一
計	一、四七五	一、〇三五	二二、一九六	四・四

2、中分類表による業態別數の概説

中分類表(第三表)による業態數は百九種で、商工業關係の業種中最も同業者の多いものを抽出して素  
抽的檢討を加へて見よう。

【第三表】

昭和十四年調査の百五十戸以上を有する業態數

順位	業 態 名	戸 數	一戸當平均 顧客戸數
1	菓子店	六、七二戸	三二戸
2	飲食店	三一一	六九
3	酒・味噌・醬油店	二七五	七八
4	青果物店	二三六	九一
5	家具・指物店	二三三	九二
6	料理店	二二二	一〇一
7	木材・竹材店	二〇六	一〇四
8	燃料店	一九七	一〇九
9	白米・雜穀店	一八九	一一四
10	毛筆製造業	一七〇戸	一二六戸
11	履物・傘店	一六九	一二七
12	自轉車・自動車部分品店	一六八	一二七
13	藥品・賣藥店	一六三	一二九
14	和服裁縫店	一五六	一三七
15	理髮店	一五四	一三九
16	荒物・雜貨店	一四〇	一五三
17	麻真田業	一一四	一
1	菓子店	七一五戸	二八戸
2	飲食店	四〇七	四八
3	酒・味噌・醬油店	二八六	七〇
4	青果物店	二二九	八七
5	家具・指物店	二一三戸	九三戸
6	燃料店	二〇二	九九
7	履物・傘店	一九九	一〇〇
8	白米・雜穀店	一八七	一〇六

昭和十年調査の百五十戸以上を有する業態數



9	料理店	一八五	一〇七				
10	荒物・雜貨店	一七一	一一五				
11	藥品・賣藥店	一五九	一二五				
12	自轉車・自動車部分品店					一五八	一二六
13	木材・竹材店					一五一	一三二
14	麻・眞田業					一五〇	一

四〇

業態数の多いものから順位に列挙して昭和十年の調査と比較対照して見た。尙参考として第四表をも掲げて其の詳細を示した。一瞥すれば飲食品關係の業態が上位に位することに驚かされる。尙前回と比較して、全體として矢張り物品販賣業（小賣商）の減少が目につく。特に第三表に於て菓子店・飲食店・酒・味噌・醬油店は夫々絶對數を減少して居り、一戸當り平均顧客は何れも増加して居る處を見れば、此の四年間に自然淘汰により之れ等戸數の整理が行はれた。酒店などは既に免許制の實施に伴つて其の影響を受けて居るものと思はれる。前回と比較して著しく減少した業態は、荒物雜貨店百四十戸（前回一七一戸）、麻眞田業百十四戸（一五〇戸）、履物傘店百六十九戸（一九九戸）、理容業四十九戸（一〇四戸）である。之れに反して特に増加した業態は、再製絹絲業百三十戸（前回七十一戸）、織布業六十戸（二五戸）、襪襦商三百八十二戸（一七七戸）、木材竹材店二百六戸（一五一戸）、料理業二百十二戸（一八五戸）、俸給生活者（月給取）三千八百四十九戸（三千百五戸）等にして時局の波に乗つたものと云へよう。再製絹絲業・織布業が四年前の約二倍以上にも増加して居ることは刮目に値ひして居る。

當市の重要産業たる繭絲關係の業態即ち製絲業・繭絲問屋業・繭絲屑物業・再製絹絲業等、合計六百五十三戸を占め、他都市に見られない特異性を示して居る。前回の調査に比して業者戸數も増加して居るが統制をよそに昔ながらの殷盛を極めて居り、絲の都を誇るだけの傳統的暖簾を固守して居る。

【第四表】

全市業態別對比表

番號	業態名	戸數		全戸數に對する割合 (客業・物産・食業を除く)	一戸當り戸數	従業員數	
		本業	兼業			男	女
1	白米・雜穀店	一八九戸	二一七戸	〇・八六	一一四戸	一三四人	六人
2	砂糖・粉類店	五八	八六	〇・二七	三七〇	一三二	四〇
3	茶店	三一	八	〇・一四	六九三	三	一
4	煙草店	四五	一四〇	〇・二一	四七七	一	一
5	肉店	八八	二〇	〇・四一	二四四	七四	一一
6	漬物・罐詰・佃煮店	三八	八〇	〇・一八	五六五	八二	一九
7	酒・味噌・醬油店	二七五	二三三	一・二八	七八	二四一	一六
8	豆腐・油揚店	五一	四二	〇・二四	四二一	三九	六
9	魚店	一三三	一四	〇・六二	一六一	八〇	二
10	竹輪・蒲鉾店	四三	一一	〇・二〇	四三〇	四九	三
11	海産・乾物店	四七	二二	〇・二二	四五七	六八	一六
12	菓子店	六七二	三四六	三・一二	三二	二二八	一七八
13	青果物店	二三六	二〇三	一・一〇	九一	七五	一四

四二



50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	
合	其 他 物 品 販 賣 店	花 卉 種 苗 店	肥 料 飼 料 店	燃 料 店	玩 具 運 動 具 店	文 房 具 紙 店	書 籍 雜 誌 店	其 他 什 器 機 械 器 具 建 築 材 料 店	セ メ ン ト 煉 瓦 店	木 材 竹 材 店	古 道 具 店	自 轉 車 自 動 車 店	荒 物 雜 貨 店	印 判 器 店	樂 器 店	ラ ヂ オ 瓦 斯 電 氣 器 具 店	機 械 器 具 店	金 物 農 具 店
五、〇九一	一五六	五〇	四三	一九七	二八	九四	四一	九	四三	二〇六	一〇二	一六八	一四〇	一九	一四	二七	五三	九三
二、三八三	三三	一六	一六	九四	一三	六七	六	二	一三	二七	八	一一	六八	一四	一七	七	三七	三七
二、三七〇	〇・七三	〇・二三	〇・二〇	〇・九二	〇・一三	〇・四四	〇・一九	〇・〇四	〇・二〇	〇・九六	〇・四七	〇・七八	〇・六五	〇・〇八	〇・〇七	〇・一二	〇・二五	〇・四三
四、三三	一三八	四三〇	五〇〇	一〇九	七六七	二二九	五二四	二、三八七	四三〇	一〇四	二一〇	一二七	一五三	一、一三一	一、五三四	七九五	四〇五	二三一
四、〇七六	一〇五	二	三九	一九八	六一	一〇	八七	一八	二七	七八三	一	二〇六	一四	五	三	三四	七四	八〇
八、一一	七〇	二	三三	六	四	四	一五	一	七二	一四	四	四	一	一	一	五	三	三

四三

32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14
陶 磁 器 硝 子 器 店	柳 竹 藤 製 品 桶 樽 店	箆 筒 店	家 具 指 物 店	其 他 服 飾 品 店	古 着 袋 物 店	靴 袋 物 店	靴 物 店	履 物 傘 店	時 計 眼 鏡 貴 金 屬 店	化 粧 品 小 間 物 店	糸 類 手 藝 品 店	綿 蒲 團 蚊 帳 店	足 袋 雜 貨 店	洋 品 雜 貨 店	婦 人 子 供 服 店	洋 服 太 物 店	吳 服 太 物 店	其 他 飲 食 品 店
七三	一一七	三二	二三三	二九	三九	二四	五五	一六九	八七	八九	一〇	六五	三〇	一〇六	四〇	一四五	九五	一〇二
三九	一九	二	二一	三	四	一五	三六	四一	三六	五三	七	八	二八	一七	二〇	一六	一二	五五
〇・三四	〇・五五	〇・一五	一・〇九	〇・一四	〇・一八	〇・一一	〇・二六	〇・七九	〇・四〇	〇・四一	〇・〇五	〇・三〇	〇・一四	〇・四九	〇・一九	〇・六八	〇・三九	〇・七四
二九四	一八三	六七一	九二	七四一	五五一	八九五	三九一	一二七	二四七	二四一	二、一四八	三三〇	七一六	二〇二	五三七	一四八	二二六	二一〇
二二二	六二	二九	一一三	二二	四	二八	四四	五六	二九	四三	五	一一三	一六	五八	五	一八	一〇五	四二
四三	一五	一四	一	二八	一四	一七	一	一	八二	三	一五	一四	一八	一八	三三	四	三	四

四二



89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71 70 69 68

料飲 舖代 周新 理理 湯貸 藝旅 有質 無盡 運貸 保請 表寫 印  
 理食 書旋 同社 容髮 屋座 妓館 券屋 盡・金 輸動 代負 具眞 刷  
 店店 商業 業店 業業 業業 業業 業業 業業 業業 業業 業業 業業 業業 業業 業業 業業 業業 業業 業業 業業 業業 業業

二 三 一 二 九 二 四 一 五 四 五 七 八 四 二 四 一 三 二 六 一 四 一 三 〇 五 九

四 〇 | 四 三 一 二 七 | 二 | 一 九 一 | 九 七 三 七 一 六 二 二

四五

一 八 五 二 六 一 三 三 | 六 九 一 三 | | 一 〇 五 | 二 四 〇 二 二 六 四 六 一 四 九 一 四 一 二 〇

三 九 六 | ! 三 〇 八 九 | 二 六 一 一 八 一 一 八 一 七 | 六 一 | 五 四

67 66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51

洗其 染和 織疊 彫錫 鐵毛 麻眞 蠶摠 再製 繭繭 繭繭  
 滌の 物洋 布布 製製 力筆 眞眞 種糸 製絲 屑問  
 造他 裁裁 布布 造造 細細 工工 田田 絲絲 絲絲 屋屋  
 加製 洗洗 布布 造造 工工 造造 製製 絲絲 物物 屋屋  
 工造 張張 縫縫 造造 工工 造造 造造 造造 造造 造造  
 業業

六 二 一 二 四 一 一 三 一 一 五 六 六 〇 五 〇 一 八 六 五 一 三 〇 一 七 〇 一 一 四 一 〇 四 六 一 三 〇 二 八 三 一 二 〇 一 二 〇 戶

九 三 一 一 〇 六 一 一 一 二 〇 三 五 五 八 一 九 三 一 戶

五 九 二 三 四 二 八 二 五 八 四 一 六 五 二 一 九 四 一 一 〇 〇 九 五 一 五 三 七 一 四 二 一 〇 一 四 四 三 二 六 四 人

二 七 五 | 四 三 | 三 〇 四 | 二 | 四 七 | 六 五 三 四 一 一 六 七 四 六 八 七 九 四 八 三 九 人

(第二表) 特殊商工業・其他

四四



108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90
倉庫	空家	其の他	無職	内職	醫院	看板・裝飾	農藝	師匠	宗匠	月給	職人	日傭	産婆	行商	按摩・電氣・其他治療業	襪具	葬具	半弓・貨船・遊技店
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
二、三、一九六	一、〇三五	五五六	二、〇七三	四六七	一三五	四七	一、三七四	一二四	一四三	三、八四九	九〇二	二、二九七	二五	三一二	一〇四	三八二	一一	五二
四、四七七	一七六	一七六	一〇一八	一	一	四	三二八	一七	一二	四九	二二	七六	二七	二一	一三	一九	三	四六
九、一〇三	一八	二九四	四	五	一三	七	一九	一	一	八	八	一	一	三	三二	一七	一	五
一一、四三〇	一	一三二	三	一	一三五	一	四	一	一	二	一	一	一	一	四三	一	一	三〇
二、〇九五	六八一	一、〇三五	二、〇七三	四六七	一三五	四七	一、三七四	一二四	一四三	三、八四九	九〇二	二、二九七	二五	三一二	一〇四	三八二	一一	五二
二、〇九四	一	一七六	一〇一八	一	一	四	三二八	一七	一二	四九	二二	七六	二七	二一	一三	一九	三	四六
五、〇二七	一八	二九四	四	五	一三	七	一九	一	一	八	八	一	一	三	三二	一七	一	五
一一、六一九	一	一三二	三	一	一三五	一	四	一	一	二	一	一	一	一	四三	一	一	三〇

### 3、都心と商工業の分布

第五表によれば物品販賣業の最も多い地区は狭間校區で、校區内總戸數一千五百二十戸に對し三割七分が物品販賣業で、前回調査に比すれば二厘の減少である。即ち絶對數の多いのは新川校區であるが、分布の密なる校區は狭間校區である。花園商店街を有する狭間校區が當市の中心區域で、四年後の今日でも當市に於ける都心は移動して居ることが窺はれる。最も小賣店の少い地區は吉田方・東田の兩校區で、共に小賣店數は校區内總戸數の一割三分しか無い譯で、多數の農家と俸給生活者を有する地區である。前回調査と比較すれば花田校區・牟呂校區を除いた校區は全部物品販賣業が減少して居る。此の點及び空家の減少率から言つても、花田校區はすばらしい發展振りを示して居る。此のことは全市各公設市場の賣上高の比較から見ても、最近花田市場は頗る其の賣上を増加して居る點でも明かである。

【第五表】 業態調査地區別表

東田校區	八町校區	新川校區	狭間校區	松山校區
物品販賣業	物品販賣業	物品販賣業	物品販賣業	物品販賣業
三三戸	六六八	八二四	五六八	五三八
特殊工業	特殊工業	特殊工業	特殊工業	特殊工業
四六戸	四六四	七〇六	四七一	四七五
其他	其他	其他	其他	其他
一、六五六戸	一、四五〇	一、七三四	四八一	一、〇三五
合計	合計	合計	合計	合計
二、三九三戸	二、五八三	三、三四四	一、五三〇	二、〇八八
空家(建築中)	空家(建築中)	空家(建築中)	空家(建築中)	空家(建築中)
一四二戸	一七	一一	九	八五
倉庫	倉庫	倉庫	倉庫	倉庫
六二戸	五	七	七	四七
合計	合計	合計	合計	合計
三〇三戸	三〇五	一九九	一七	一三三
總計	總計	總計	總計	總計
二、五九五戸	二、七八七	三、四四三	一、六四七	二、二二〇



松葉校區	八九〇	六六四	一、三三三	二、八八七	一七三	一六五	三三八	三、三三五
花田校區	三九	三九	一、二二三	一、八八一	八六	四七	一三三	二、〇一四
羽根井校區	三五	三四	一、三三〇	二、〇〇九	九六	三六	一三六	二、一四五
下地校區	一八四	六五	四一	六九〇	五二	五四	一〇五	七九五
牟呂校區	三	一五	一四三	一九九	二	一	三	一九三
福岡校區	三四	三五四	一、〇九七	一、六七五	天	三四	九三	一、七六七
吉田方校區	四	三六	二八五	三七二	四	一	五	三七七
計	五、〇八一	四、三三三	一三、〇八	二二、四〇	一、〇四五	六、一	一、七六	三三、一九

特殊商工業者の最も多い校區は狭間校區で、校區内總戸數の三割九厘が特殊商工業者である。又消費階級とも見るべき非經營體戸數の最も多い校區は牟呂校區で、校區内總戸數百八十九戸に對して七割五分を占めて居り、殆んど全部が農業・漁業である。次に多い校區は東田校區で、校區内總戸數二千三百九十三戸に對し六割九分迄が此の非經營體である。其の内半數以上が俸給生活者と無職とで、住宅地區であることを立證して居る。

#### 4、經營形態調査に就いて

戦時下統制經濟の強化と戦時重要物資の配給統制等に伴ひ、各種組合設立の強要を受け又は中間商人の排除等全面的に配給機構の一大變革が行はれつゝある時に當り、當市に於ける經營形態の實情を知悉し、目下官民擧げて論議的となつて居る、小賣業免許制の參考資料ともなさんが爲めに本調査をも行つた譯である。

左に經營形態總數表を掲げておく。

【第六表】

#### 經營形態總數表

業 種	業 名		業 種		業 種		業 種		合 計
	小 賣	卸 賣	製造小賣	製造卸	問 屋	修繕加工	合 計		
物 品	飲食	一、四七〇戸	一、二八戸	二、一七戸	一、六〇戸	三、一戸	二、〇〇八戸	九、八三	
	衣服・裝身具品關係	五九六	四五	一九七	五四	七	八四	一、三二九	
販賣業	什器・機械・器具・建築材料關係	五七八	一〇八	三一二	二〇九	六	一一六	一、三二九	
	其他物品販賣關係	五七六	七八	六〇	四三	八	六	七七一	
小 計	三、三三〇	三五九	七、八六	四、六六	五、二	二〇八	五、〇九一		
特殊製造加工業	二八	四六	二七〇	七〇八	二七	四六九	一、五四八		
商工業	三三一	四八	三七二	一八	五六五	四七四	一、八〇八		
小 計	一、三五五	九四	六、四二	七、二六	五、九二	九、四三	三、三五六		
總 計	三、五七九	四、五三	一、四二八	一、一九二	六、四四	一、一五一	八、四四七		

小賣店戸數は三千五百七十九戸にして、全營業經營體の四割二分が小賣店である。次に多いのが製造小賣の一千四百二十八戸にして、製造小賣は勿論小賣形態と考へてよい。従つて小賣店（五、〇〇七戸）が全經營體の六割にて全市内總戸數二萬一千四百八十戸（空家を除く）に對しては二割三分に當る。又最も少い經營體は卸賣店で全市に四百五十三戸しかない。即ち全市總戸數に對し僅かに二分にしか當らない。

#### 5、從業員調査に就いて



一都市に於ける従業員總數を知ることは其の都市の産業の盛衰を知るバロメーターであり、工場法・商店法實施と共に益々其の調査の重要性を加へて來た。又時局下に於て平和産業から殷賑工業へと轉向し、各工場及び商店に於ては全く従業員の拂底を告げ、商店經營上にも至大の影響を與へつゝある状態に鑑み今回の業態調査實施を機会に我が豊橋市の従業員を調査することとした。

今回の従業員數調は雇傭關係者のみを調査し、家族従業員は調査しなかつた。調査の結果、従業員數は男子九千三名、女子一萬二千四百三十名、合計二萬一千五百三十三名で、當市人口の約一割五分を占めて居り、最も多數を使用して居るものは製絲業の九千八百八名で、流石に繭絲の都豊橋の名に恥ぢない。

【第七表】

業 態 名	業 態 名		合 計
	男	女	
物 品	イ、飲 食 品 關 係	一、二四八人	一、五六三人
	ロ、衣服・装身具品關係	六五六	
販賣業	ハ、什器・機械器具・建築材料關係	一、六五〇	一、八一三
	ニ、其の他物品販賣關係	五二二	
特 殊 商 工 業	イ、製 造 加 工 業	四、〇七六	四、八八七
	ロ、特 殊 商 工 業	三、〇七八	
商 工 業	ハ、其の他 雜 業	一、五五四	一、九八三
	イ、其の他 雜 業	三九五	
合 計		二一、四三〇	二一、五三三

◆附記 藝妓(五一二名)、娼妓(四三四名)、女給(三一八名)は調査しなかつたから、六月一日現在の警察署の調査數を記載して参考供したい。

第四表全市業態別對比表に各業態別に従業員數を記載して、業態戶數と従業員數との比較對照の便を圖つておいた。物品販賣業及び特殊商工業に於て、平均一戸當り一人以上の従業員を有する業態を順位を附して列擧して見れば次の通りである。

【第八表】

一、物品販賣業			二、特殊商工業		
順位	業 態 名	一戸當平均従業員數	順位	業 態 名	一戸當平均従業員數
1	木 材・竹 材 店(含製材)	四・一人	11	呉 服・太 物 店	一・四人
2	陶磁器・硝子器店(含製造)	三・六	12	自 轉 車・自 動 車 店	一・三
3	綿・蒲團・蚊帳店(含製造)	三・〇	13	ラヂオ・瓦斯・電氣・器具店	一・二
4	砂 糖・粉 類 店	二・九	14	竹 輪・蒲 鋒 店	一・二
5	漬物・罐詰・佃煮店	二・六	15	洋 服 店	一・〇
6	玩具・運動具店	二・四			
7	書籍・雜誌店	二・二	1	製 絲 業	三四・六人
8	海 産・乾 物 店	一・七	2	鐵 工 業	七・六
9	鞆 袋 物 店	一・五	3	無盡・金銭貸付業・信用組合	七・四
10	機 械・器 具 店	一・五	4	再 製 絹 絲 業	六・八







就職年月日

明治二十六年  
同 二十八年四月  
同 三十年九月  
同 三十三年七月  
同 三十三年九月  
同 三十四年六月  
同 三十四年九月  
同 三十四年九月  
同 三十五年三月  
同 三十八年五月十九日  
同 三十八年五月十九日  
同 三十九年六月廿五日  
同 四十年十月一日  
同 四十一年八月三十日  
同 四十二年五月三日

會頭

加藤六藏  
三浦碧藏  
加藤六藏  
三浦碧藏  
瀧崎安之助  
中尾十郎  
原田万九郎  
佐藤市十郎  
遠藤安太郎  
遠藤安太郎  
高橋小十郎  
服部彌八  
服部彌八

副會頭

三浦碧藏  
遠藤安太郎  
杉田久吉  
中西廣三郎  
鈴木清十郎  
大山復次郎  
遠藤安太郎  
原田万九郎  
原田万九郎

明治四十四年五月五日

田中田新

中西廣三郎

大正二年五月一日

田中新

神戶小三郎

同 六年五月一日

白井直次

中西廣三郎

同 七年十月七日

高橋小十郎

服部彌三郎

同 十年四月十六日

高橋小十郎

服部彌三郎

同 十二年九月廿八日

山本安太郎

服部彌三郎

同 十四年四月十六日

福谷元次

山本安太郎

昭和四年四月十五日

福谷元次

神野三郎

五五

山本安太郎



主要産物

(昭和十三年市産業課調査に依る)

農産物

1、食用農産物

種別	數量	價格
米	九、八三二、二三九卅	二、三〇〇、四九四円
麥	三、二三八、七八〇	四七二、六七八
甘藷	九、二六一、六五三	二四二、〇三八
馬鈴薯	一、〇九〇、九五八	三六、〇七五
大豆	六二、七六七	八、七六九
其他	二、三、四八六、三九七	三、〇六〇、〇五四
計		
2、果	數量	價格
梅	六九、四八八箱	五、九五一円
柿	一二六、八四八	二、三、〇〇三
蜜柑	一四三、五七六	九、八七八
夏蜜柑	一一八、四九六	七、五八四
蜜		五七

五六

昭和五年三月七日	神野三郎	山本安太郎
同五年三月十八日	河合孜郎	河合孜郎
同八年四月十日	神野三郎	河合孜郎
同十年四月二十日	河合孜郎	福谷藤七郎
同十一年九月四日	河合孜郎	山田芳齋
同十二年四月八日	河合孜郎	内田芳齋
同十三年七月廿七日	河合孜郎	加藤發太郎



無花果 其他

一二、二三六  
九八、五七七  
五六九、三二一

五八

二、一四四  
九、三五七  
五七、九一七

豌豆 3、蔬

三四、二九七  
二〇、〇〇〇

價

五、〇一五  
二、二一九

大豆 3、蔬

二四、四八〇

價

一、二八六

其他 3、蔬

二〇、七五一

價

一、五九二

計 1、〇二、〇八七

1、〇二、〇八七

價

1、四〇七

4、蔬

菜 (根菜類)

價

格

生 大 根 4、蔬

四、四五四、五九五  
一九四、〇四四

價

六三、七一八  
一四、八五〇

牛 勞 根 4、蔬

一一九、五八四

價

五、八六八

人 參 根 4、蔬

八八、二〇四

價

二、四二二

蓮 根 5、蔬

二八、八六〇  
一九、五五六

價

二、九八六  
二、六九一

里 芋 5、蔬

五五一、六一八

價

三八、〇九八

葱 姜 5、蔬

一七三、四二六  
三八八、七八五

價

二六、六三八  
一四、三一七

其他 5、蔬

九五、三八九  
七一、〇四五

價

五、八七六  
三、九六一

計 1、二八〇、二六三

1、二八〇、二六三

價

八八、八九〇

6、蔬

菜 (果菜類)

價

格

西 瓜 6、蔬

二六一、四六一

價

五六、八二四

南 瓜 6、蔬

三八七、九四五  
七一七、七九九  
四五六、六〇八

價

五九、四八五  
三九、二四〇  
一九、一一七

計 5、蔬

四、九〇四、八四三

價

九二、五三五



其茄  
計の  
他子

七五八、六七八  
五〇二、四〇三  
三、〇八四、八九四

六〇  
二三、八七三  
二五、一六二  
三三三、七〇一

キ  
種  
別

一、一六七、二一〇  
二五、七四四

六八、四七六  
一、二七七

フ  
種  
別

一、七五三、四四八

四六、四〇一

其菠漬  
計の  
他草菜

二八二、二一八  
二四、二三八  
三、二五二、八五八

一七、三八五  
七五八  
一三四、二九七

8、  
蔬

菜 (乾燥蔬菜)

價

甘  
種  
別

二七七、六一六  
六九、九〇〇

一六、八一二  
五、六三〇

干  
種  
別

七九、八八六

一二、〇七八

切  
計  
大

四二七、四〇二

三四、五二〇

9、  
花

卉

價

花  
種  
別

三、五三〇

一六九円

10、  
工藝農產物

數

價

ナ  
種  
別

三九四、〇五九

七二、九二〇

ゴ  
種  
別

一一、四四七

三、一五四

其甘  
計の  
他蔗

八二、二四九

二、九一七  
一、〇四六  
八〇、〇三七

11、  
農產物種子

數

價

大  
種  
別

四四一

三四九円

白  
種  
別

一一

一五

甘  
種  
別

四五三

六一  
三六四



12、綠肥用作物  
 種別  
 計  
 數量  
 一、二二五、七二五  
 一、一三六、〇二六  
 二、三六一、七五一  
 價格  
 七、六八八  
 五、三八九  
 一三、〇七七

13、觀賞植物  
 種別  
 計  
 數量  
 一、三三二  
 價格  
 二、三、九四七

14、果樹  
 種別  
 柿・ブドウ・柑橘苗  
 數量  
 一、三三二  
 價格  
 一三五

15、製茶  
 種別  
 計  
 數量  
 一八、三一  
 七、三二八  
 二五、六三九  
 價格  
 一三、六七二  
 一、一七二  
 一四、八四四

16、桑  
 種別  
 計  
 桑葉  
 數量  
 一三、一〇一、九八六  
 五七〇、三九〇  
 價格  
 三三三、二〇〇  
 七、七一七  
 三四〇、九一七

17、養蠶  
 種別  
 計  
 春  
 數量  
 一四〇、〇五五  
 二二九、〇四〇  
 三六九、〇九五  
 收購量  
 三七〇、三一二  
 三九八、〇〇三  
 七六八、三一五  
 價格  
 四五〇、三五九  
 四八五、八五九  
 九三六、二一八

18、蠶絲類  
 種別  
 計  
 玉生真蠶  
 數量  
 五六二、九五〇  
 一五八、八七六  
 價格  
 三三五、三二八  
 二、五七八、九〇八  
 五、五五三、〇四九  
 六三



座屑 計

線物

二〇二、四八七  
二一、七四六

六四

19、家畜

(昭和十三年十二月三十一日現在)

種別

頭數

種別

頭數

牛馬豚山

羊

一、六二四頭  
一三九  
一、九四一  
九一

乳家種  
牛頭價額  
兔羊

四二、八四二  
二〇二  
七、二一四  
二二四  
一頭

20、家禽

種別

數

量

價

格

成産成雛

雞 卵 鵝

三〇九、九九八羽  
一八五、五八〇  
四八、二一五、七六二個  
四九羽  
四二〇

三九五、五二五円  
一三九、一八五  
一、四二三、九一八  
四〇  
一八九  
一、九五八、八五七

21、沿岸漁獲物及水産製造物

種別

數

量

價

格

鮮魚(雜魚)類  
貝類  
蝦・烏賊類  
藻類  
乾類  
乾アサリ  
蒲鉾・竹輪  
佃煮類  
肥料藻類  
其他

三四九、〇六四箱  
一三六、一八六  
一〇、一九四  
一〇二、六一六  
四六、八一  
八六  
一、〇五一、九二八  
一八三、六二三  
三七、八二三  
六九、八四四

七〇、五七四円  
四、九五五  
一二、三二八  
七、三〇八  
二一七、七二八  
八二  
六一九、九三六  
一二二、五一三  
六〇五  
六一二  
一、〇五六、六四一

22、水産養殖

種別

數

量

價

格

鰻 鯉

五九三、八六五箱  
七七二、二〇三

一三五、二三八円  
五五一、六〇三

六五



ボ 一四二、〇七六  
 ア 二、五三九、五〇〇  
 ア 八一、九四一  
 マ 三五四、六五六  
 ノ 二二一  
 リ (青ノリ) 四四八  
 カ 一、五九六  
 キ 一、一七四、九五六  
 金 五六、〇〇〇  
 其 計 一、一七四、九五六

23、織物・染物

綿織物 一五〇、〇九八円  
 絹織物及絹綿交織物 一九四、七五五  
 毛織物 二一〇、五八四  
 種別 價格  
 ステール・ファイバー織物 三八、七二八円  
 三、四、八一四  
 六二八、九七九

24、醸造

味噌 六一〇、五七六円  
 溜 四八二、七二四  
 種別 價格  
 酢 一三、六四〇円  
 計 一、一〇六、九四〇

25、紙製品

團扇 一五、一九六円  
 提子 六、八二五  
 種別 價格  
 屏風及襖 一六、一三〇円  
 其他 二二一、七八五  
 計 二五九、九三六

26、車・輛・船舶

荷積車 三三輛 二九、五四〇円  
 船舶 一六艘 二五、九〇七  
 計 五五、四四七

27、氷及飲料水

人造氷 六七、三四八円  
 清涼飲料水 二二六、五〇九  
 種別 價格  
 計 二九三、八五七円

28、食料品

菓子 六一、八七五円  
 和菓 八〇六、三七一  
 種別 價格  
 洋菓子 七二八、五四〇円  
 飴菓 三〇、三八六  
 計 六七



漬 麩 麵 類

物 類  
七八、七五一  
九、九一〇  
一一、九〇〇  
一六、二七五  
二六、八四〇

麵 類  
トマ 製品  
麥 粉 (機械製)  
罐 詰

六八  
六八、〇二〇  
七一八  
六四、八二二  
一〇六、二〇五  
二、〇一〇、六一三

29、木材製品

指 箱 桶 挽

種 別  
物 類  
價 格  
四四〇、七五〇円  
四四一、〇六〇  
四七、二五一  
二五、二九〇

曲 履 木  
種 別  
物 (素地)  
計

價 格  
三、二六五円  
六五、三八〇  
三、一一〇  
一、〇二六、一〇六

30、竹・籐・藁製品

竹 籐

種 別  
製 製 品  
價 格  
四九、六五四円  
一七〇

藁 製 品  
種 別  
計

價 格  
六四、六〇七円  
一一四、四三一

31、裝身具

足 履

種 別  
メ リ ヤ ス 袋 物  
價 格  
五、九一六円  
一三九、七三一  
一四六、六九八

石 帽  
種 別  
子 鹼  
計

價 格  
八二六円  
一四、三〇三  
三〇七、四七四

32、金屬製品

雙 力 及 亞 鉛 板 製 品  
アルミニウム製品

種 別  
物  
價 格  
九、六七三円  
一七七、七九九  
一四、八六〇

金 屬 製 網  
種 別  
計

價 格  
三八、四五〇円  
二四〇、七八二

33、鑛産・石材及土

砂 粘 石

種 別  
灰 石 土 利  
價 格  
一二、八九〇立坪  
四、七八二、一八八瓶  
二、五七四、三七五

量 價

七九、〇一八円  
九、八二〇  
六、九二一  
九五、七五九

34、雜工品



種別	價格
麻田	一、六六二、一五七円
製綿	九四〇、〇四三
毛筆	四八七、三二〇
蒲團及蚊帳	八五、四一七
皮革製品	一四五、七八八
文房具	二、七五九
機械器具類	一、四五七、三五八
農用機械器具	四二、八一九
蠶絲製網	六〇七、八八〇
蠶絲製網	八五
玩具	一二、八六〇
植油	六七、三八〇
瓦磁器	二四、八八五
陶磁器	二五〇、五二九
漆器	七、四七一
煙火	九五三
紐類	三八、三七七
醫療用品	一〇三、二八五

種別	價格
賣藥部外品	一一、五〇〇円
和樂器	五、二二三
コーラル	四四、四四七
煉炭及炭團	一六一、三九四
刷子及刷毛	八、八二〇
摺傘	四七四、六四一
和傘	二七、〇〇九
岩石細工	三五、〇二一
岩石	一、八九七
壘石	三三、〇六五
布帛製品	三四、八一二
染色物品	一〇、三四一
刺繡	二二二
綱索	一六、五二四
染料	一三、〇三三
ゴム製品	六七七
ガラム	六七七

35、林産

種別	數量	價格
柴草	二、二七六、一三〇	一八、二一一
伐採材	九三〇	三、〇七九
竹材	四、三一五	二、〇六二
竹材	二二、二一一	二、〇一四
竹材	一	一、六五一
其他		
計		二七、七二二

生産總額

種別	昭和十三年度	昭和十二年度	昭和十一年度
工業物	四九、六二六、三六六	五一、六一一、五六二	三三、〇九三、八七三
農産物	五、四〇三、七五六	五、〇七四、九九二	四、八八七、〇四〇
畜産物	二、三一二、六〇一	一、五二七、九三六	二、〇一三、九五八
水産物	二、二三一、五九七	一、九二七、六二二	二、二三一、八八三
鑛産物	九五、七五九	九七、三八六	九九、一〇〇
林産物	二七、〇一七	二四、〇五〇	二二、七五六
計	五九、六九七、〇九六	六〇、二六三、五四八	四二、三四八、六一〇



玉絲產額

(三遠玉絲製造同業組合)

昭和十一年度

七二

種目	昭和十三年度	昭和十二年度	昭和十一年度
組合員數	四〇人	四二	四七
生産數量	六,五五七釜	六,八三五	七,二五九
生産價格	二五,四八三圓	二九,四八一	三三,六一五
海外輸出數	九,四四〇,九七三圓	七,一六〇,二一四	七,四三八,六八〇
内地販賣數	六三〇圓	四,七二四	三,七七九
合計	二四,八五三圓	二四,七五七	二九,八三六

生絲產額

(愛知縣製絲業組合東三支部)

昭和十三年度

昭和十二年度

昭和十一年度

種目	昭和十三年度	昭和十二年度	昭和十一年度
組合員數	一六〇人	一六〇	一九〇
生産數量	八,三〇四釜	八,四〇六	九,九三二
生産價格	五五,四二〇圓	五四,七〇一	五一,五七八
海外輸出數	二一,九七二,六五九圓	二〇,四〇七,八三三	一九,六一八,四一四
内地販賣數	一六,六二六圓	一八,一二四	一六,三六八
合計	三八,七九四圓	三六,五七七	三五,二一〇

麻真田產額

(豐橋輸出麻真田工業組合)

昭和十三年度

昭和十二年度

昭和十一年度

種別	昭和十三年度	昭和十二年度	昭和十一年度
組合員數	四六八	四六	四六
生産價格	四,六一,五〇〇圓	五,六四一,三七三	四,二五六,八九七
合計	一,一五二,四三九圓	一,六六二,一五七	一,〇五六,五四六

豐橋生繭取引市場取引高

年次	春				夏				秋				合計			
	最高	最低	買馴	數量	最高	最低	買馴	數量	最高	最低	買馴	數量	最高	最低	買馴	數量
昭和十三年	五,四三三	二,三〇〇	四,一〇四	六九,六三一	六,六五	二,三二	四,〇五二	一一四,一三六	五,〇八	一,八六	一,八六	一八八,五三	八,六	三,一	八,六	三,一
昭和十二年	五,〇〇〇	二,六〇〇	三,九四三	四,七四	五,八八〇	一,八八五	一,〇六	四,六八	五,三九	一,五六	三,九七〇	一六八,二四一	六,六八	〇,二五	二,八三	五,九八
昭和十一年	五,六二一	三,一〇〇	四,〇〇〇	一六四,六二六	五,九四	二,一八	四,八七〇	三,五九,七八五	一,三五四	七,二七	四,〇〇	一,三三	二,一六七	四,六八		

豐橋倉庫出入貨物

年次	入庫		出庫		殘
	數量	評價格	數量	評價格	
昭和十三年	五九三,六七三	三,三九四,四三九	五四九,五三一	三,九三三,七三七	一四三,九三五
昭和十二年	五六一,六〇八	三,三三七,八九七	五四七,二九四	三,三三九,一三七	一〇,七七四
昭和十一年	五三,四六九	二,三七三,八七	四七一,八四三	三,三五七,一五五	八七,四六〇

七三



豐橋市酒類查定高

(稅務署)

七四

種別  
清酒

昭和三十二年	昭和十一年
數量 稅額 價格	數量 稅額 價格
石 1,112.021 11,202.1 111,111.000	石 3,672.01 11,202.1 111,111.000

豐橋市織物查定高

種別  
絹織物  
絹綿交織物  
毛織物  
綿毛織物  
其の他織物

昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年
數量 稅額 價格	數量 稅額 價格	數量 稅額 價格
反 29,733 1,386.7 154,334	反 26,996 1,053.1 27,105	反 33,810 9,927 20,379
反 2,903 39.9 3,233	反 7,388 58.1 6,456	反 2,139 56 5,843
反 247 1,953 17,697	反 86 5,155 57,391	反 980 5,278 58,646
反 73 15,743 174,935	反 1,270 87.9 9,770	反 41 182 2,019
73 15,743 174,935	9,770	569

豐橋市炭酸瓦斯含有清涼飲料水移出高

種別  
免許人員  
工場  
石  
稅

昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年
人員 6人	人員 6人	人員 5人
數量 3,203石	數量 3,079石	數量 2,897石
額 30,788円	額 29,716円	額 1,517円

物價と勞銀

一、豐橋市内諸物價卸値段

銘柄	單位	昭和十三年 上半年平均	昭和十三年 下半年平均	昭和十二年 上半年平均	昭和十二年 下半年平均
玄米 三河米 二等品	石	33.98	35.05	32.42	33.08
同 同 三等品	石	33.52	34.60	31.92	33.28
同 同 米	斤	27.06	29.23	25.49	25.19
同 同 米	斤	34.02	35.30	32.15	33.81
同 同 米	斤	34.88	35.66	33.28	34.50
同 同 米	斤	34.37	35.16	32.78	34.00
同 同 米	斤	37.82	40.04	32.00	33.38
同 同 米	斤	6.26	6.29	4.66	5.69
同 同 米	斤	9.77	10.63	9.55	9.43
同 同 米	斤	21.53	23.97	18.35	19.94
同 同 米	斤	24.45	25.16	18.26	21.79
同 同 米	斤	22.03	22.38	16.88	18.93
同 同 米	斤	9.78	11.74	12.17	10.00
同 同 米	斤	8.11	8.59	9.13	8.73





蒲	鰻	牛	豚	鶏	鶏	牛	サ	月	清	同	酢	茶	同	小	同	寒	食	晒	澱
鉾	大	北	付	中	地	同	同	白	鶴	地	丸	喜	喜	日	日	生	ハ		粉
百	十	同	同	同	同	一	四	一	一	一	百	百	同	二	同	一	百	十	十二
個	貫	貫	貫	貫	貫	石	打	駄	石	石	斤	斤	斤	打	打	貫	貫	貫	貫
一九・五〇	三一・六七	四七・三〇	二六・三二	三一・四二	二二・三二	三〇・〇〇	一六・一八	八・八〇	一四九・〇〇	八五・〇〇	二一・五八	四五・〇〇	四五・〇〇	四・七八	五・一八	三・四〇	六・四五	八・六六	六・七三
二〇・三三	四一・〇〇	五六・八三	三〇・六六	三五・三三	三〇・〇三	三五・〇〇	一六・八二	八・八〇	一五一・〇〇	八七・〇〇	二二・〇〇	四五・〇〇	四五・〇〇	四・九四	五・四三	三・四〇	六・三八	九・二七	八・二五
一九・三九	二六・〇〇	四一・四七	二〇・五〇	二五・一七	一八・二九	三〇・〇〇	一四・八五	八・六五	一三六・七八	七八・六七	二〇・〇八	四五・〇〇	四五・〇〇	四・八〇	五・二二	三・四〇	六・〇〇	八・八六	八・一四
一九・〇八	二八・〇八	四三・三五	二七・五〇	二七・一七	二三・七一	三〇・〇〇	一四・八五	八・八〇	一三九・〇〇	八一・六七	二〇・五〇	四五・〇〇	四五・〇〇	四・五九	四・九九	三・四〇	六・〇〇	九・一二	六・九六

七七

竹	鹽	鹽	中	鯉	米	同	同	砂	寒	青	糸	海	高	椎	牛	澤	溜	味	食
輪			才	節	砂	分	分	天	天	板	干	野	野	肉	肉	同	同	同	同
上	同	同	煮	節	一	一	一	信	信	昆	中	中	上	上	上	中	中	中	中
百	同	十	十	一	同	同	同	千	千	同	十	百	百	一	一	一	百	百	百
本	箱	箱	箱	箱	箱	箱	箱	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤
四・七九	八・九五	一二・七一	一四・五八	六・九五	三一・二二	一四・五五	二〇・〇二	三〇・七八	三〇・七八	九・五〇	二二・七二	一・七〇	一・五三	一・四六	二七・一七	六・五五	三・七〇	二六・三〇	五・七〇
四・七九	一〇・五〇	一三・七五	一五・三三	八・五四	三三・〇二	一五・三五	二〇・八六	三二・五〇	三二・五〇	一・二二	五四・三三	一・九三	一・五七	一・四八	二七・五〇	六・八二	三七・〇〇	二六・三〇	五・七〇
四・八〇	七・九二	九・六七	一三・〇〇	八・〇二	二八・八四	一四・八二	一九・九二	三三・〇三	三三・〇三	一九・三二	一・七一	一・三四	一・五九	一・四一	二一・九一	四・〇一	三七・〇〇	二六・三〇	四・八七
四・八〇	八・〇六	一一・二二	一五・三三	六・八九	二八・五六	一四・九一	一九・八六	三六・四二	三六・四二	一〇・九五	一・七三	一・四三	一・四五	二五・〇〇	六・六二	三七・〇〇	二六・三〇	四・八五	四・八五

七六









硝子板内地製	亞鉛引針金八番	丸釘安田製二寸	同浪	同浪	亞鉛引平板月星印三十一番	杉皮並	杉柱四寸角二間中	檜板四寸角二間中	杉板四分尺巾	杉丸太同	松丸太同	檜丸太三河産二間尺メ	竹四寸廻リ	苧本晒糊上	角又石糊上	叩石灰上	瓦六判上目板	同小形一二等品	煉瓦大形	同小野田	セメント	
百平方尺	八十四斤	百斤一樽	一箱	同	十枚	十枚	同	同	同	同	同	末口六寸以下	十本	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八・六五	一三・二三	一六・四三	四〇・二二	一〇・五五	一二・四九	二・〇〇	九・〇八	一・〇〇	一・二五	九・〇〇	五・二五	九・〇八	七・五〇	二・三〇	三・三〇	五・二五	一六・六七	一八・六七	三・八〇	三・八〇	三・八〇	三・八〇
八・七〇	一五・七九	一九・四一	三九・四三	一二・四一	一四・九八	二・五五	九・七五	一・〇八	一・二九	九・五八	五・五八	一・〇〇	八・五八	二・三〇	三・三二	五・〇〇	一九・三三	二一・三三	三・九一	三・九一	三・九一	三・九一
七・八一	一二・二五	一五・七二	四〇・一九	九・四五	一一・六七	一・六〇	六・九三	一・〇八	〇・八九	六・三〇	四・二五	八・〇八	六・九二	一・八三	三・三〇	五・〇〇	一一・〇〇	一七・〇〇	三・五〇	三・五〇	三・五〇	三・五〇
八・一二	一二・五五	一五・六九	三七・五八	九・七六	一一・九四	一・五二	七・五〇	一・〇〇	〇・九四	六・九二	四・九二	八・二五	七・五〇	二・三〇	三・三〇	六・〇〇	一五・〇〇	一七・〇〇	三・五〇	三・五〇	三・五〇	三・五〇

八一

同石紀州延石	和鐵鐵	和鐵鐵	茶碗同	摺鉢同	本同判	壘表	同新上番傘	蛇ノ目傘	香九重香油	石花王	燐寸燭	洋燭	和燭	同太	毛筆	大紙	印紙	美紙		
一百才	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二八・〇〇	七・〇〇	七・〇〇	三・三九	三・〇八	二・六〇	八・三八	四・〇〇	七・五〇	三・五五	一・〇三	二・〇八	四・〇四	一・七〇	七・六三	五・八七	六・六二	四・五二	四・五二	四・五二	四・五二
二八・〇〇	八・六六	八・六六	三・三九	三・〇八	二・六〇	九・五〇	四・八五	八・一三	三・五〇	一・〇〇	二・八二	四・八〇	一・八三	八・五七	六・〇〇	六・七三	四・八〇	四・八〇	四・八〇	四・八〇
二七・八三	五六・〇〇	五六・七五	三・三九	二・九四	二・六〇	七・九二	四・七六	七・八三	三・〇三	一・〇一	一・三五	四・〇〇	一・八二	八・五〇	六・八八	五・四五	五・二二	五・二二	五・二二	五・二二
二八・〇〇	五七・一七	五八・一七	三・三九	三・〇八	二・六〇	七・五〇	四・〇五	七・〇五	三・二〇	一・〇二	一・四二	四・〇〇	一・八一	八・四一	六・〇四	五・四八	四・五八	四・五八	四・五八	四・五八

八〇



二、豊橋市内日用品小賣値段

品名	銘柄	單位	昭和十三年 上半年	昭和十三年 下半年	昭和十二年 上半年	昭和十二年 下半年
白米	三	十	二・七二九	二・六六四	二・五五六	二・六五二
改米	九	一	二・二二八	二・三三二	一・七二二	一・九三三
大良	平	一	二・二二七	二・三〇七	二・六〇〇	二・八五〇
味噌	朝	一	二・九三〇	三・〇〇七	二・六〇〇	二・八五〇
味噌	別	一	六・五〇〇	六・六〇〇	六・五〇〇	六・五〇〇
味噌	赤	一	三・一〇〇	三・五五〇	三・一〇〇	三・一〇〇
味噌	龜	一	七・四四五	七・五〇〇	六・九〇〇	七・二〇〇
味噌	地産溜	一	六・五〇〇	七・〇〇〇	六・五〇〇	六・五〇〇
味噌	川	一	六・〇〇〇	六・〇〇〇	六・〇〇〇	六・〇〇〇
味噌	鶴	一	二・二六七	二・三〇〇	二・〇〇〇	二・〇〇〇
味噌	白	一	二・〇八一	二・一五〇	一・八〇〇	一・九〇〇
味噌	正	一	三・七三三	三・九〇〇	三・四〇〇	三・六〇〇
味噌	カ	一	二・五五五	二・六七七	二・五五五	二・五五五
味噌	特	一	二・八七八	二・九六七	二・八五六	二・八〇〇
味噌	本	一	二・六七八	二・六六七	二・六七八	二・六七八
味噌	地	一	二・六九七	二・六六一	二・六〇〇	二・七五〇
味噌	若	一	六・九七	七・六一	六・〇〇	六・〇〇

品名	銘柄	單位	昭和十三年 上半年	昭和十三年 下半年	昭和十二年 上半年	昭和十二年 下半年
牛肉	内	同	一・二〇〇	一・二五六	一・一〇〇	一・二〇〇
猪肉	口	同	七・五〇〇	七・五〇〇	六・〇〇〇	七・四五〇
牛奶	地	一	〇・四一〇	〇・五〇〇	〇・三〇〇	〇・六〇〇
玉葱	同	一	〇・五九〇	〇・二九	〇・六〇〇	〇・三五〇
甘藷	同	一	一・四四五	一・五五六	一・一九	一・四七
馬鈴薯	同	一	〇・二五	〇・三一	〇・二四	〇・三五
鹽	同	一	二・一〇	一・八六	一・三〇	一・七八
豆	同	一	〇・七五	〇・七五	〇・六七	〇・六七
高野豆腐	上	一	〇・四〇	〇・四〇	〇・四〇	〇・四〇
推野豆腐	東	一	一・四〇	一・四〇	一・四〇	一・四〇
晒木綿	百	一	一・八四五	一・八四五	一・八七〇	一・八二二
綿	東	一	一・二〇八	一・三五八	一・七四七	一・七四二
白綿	百	一	一・五九三	一・六〇〇	一・六〇一	一・五七六
白綿	東	一	一・二〇八	一・三五八	一・七四七	一・七四二
縮綿	百	一	四・二七	四・二〇	三・三八	三・四九
木炭	大	一	六・六一七	七・四八九	四・四四五	五・六〇七
薪	同	一	四・二四二	四・六八七	三・一二八	三・四二八
薪	同	一	四・五七八	四・九三六	三・一六四	三・四三九
薪	同	一	八・一一	八・二〇	六・六〇	六・八一
薪	同	一	一・八二二	二・〇五〇	一・二八四	一・三六九











4、利子

年次	定期預金 (年利)			當座預金 (日歩)			特別當座預金 (日歩)		
	最高	最低	普通	最高	最低	普通	最高	最低	普通
昭和十三年	—	—	三三・〇	—	—	二・〇	—	—	—
昭和十二年	—	—	三三・〇	—	—	二・〇	—	—	—
昭和十一年	—	—	三三・〇	—	—	二・〇	—	—	—

5、手形交換高及不渡手形

年次	手形交換高		不渡		手形		合計	
	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額
昭和十三年	一三九、七六五	七四、九四、三三〇	二	二、二五	一	三〇〇	一	九八三〇
昭和十二年	一三三、五二〇	五九、七九、三〇七	一〇	二、六六七	四	七、三五五	一	一八、六七七
昭和十一年	一一、五三三	四五、五九、七五〇	一七	三、九四八	五	一五、八五三	二	二〇、三六八

瓦斯

(豐橋瓦斯株式會社)

年次	延		吸		引用戶數	孔口		賣上瓦斯量
	本枝管	供給管	屋內	熱用		燈火用	熱用	
昭和十三年	四、二一九	五、七八八	八六、三四	三、三五	—	四、〇九九	九、八四九	一、〇〇四、二一九
昭和十二年	三九、三〇九	五〇、四六六	八五、六七	三、二六四	—	四、一九一	九、三四九	九五八、八四〇
昭和十一年	三七、五九六	四九、二二三	八五、三四三	三、二〇七	—	四、三四三	九、二七八	九五三、八四三

豐橋米穀取引所取引概況

清算取引 (一石當リ)

年次	當			中			先		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
昭和十三年	三三、九〇	三三、九〇	三三、九〇	三三、八〇	三三、八〇	三三、八〇	三三、九〇	三三、九〇	三三、九〇
昭和十二年	三三、七〇	三三、九〇	三三、四五	三三、九	三〇、八七	三三、二一	三三、九五	三三、九五	三三、八二
昭和十一年	三三、八九	三九、五	三三、七五	三三、五	二八、六四	三三、二四	三三、〇九	二七、八八	三三、一三

實物取引

年次	石數		價	
	内地米 (四斗入)	朝鮮米 (四斗入)	臺灣米 (四斗入)	價格
昭和十三年	八、四七・六	二〇、三九	一〇	三八一、三〇九
昭和十二年	九、七〇・六	一九、三七	一七	二九二、六一・〇〇
昭和十一年	九、九二・四	二四、七三	二五	三九六、五六・〇〇

豐橋乾藪取引所銘柄別清算取引賣買數量

年次	當		先		賣買高	受渡高
	最高	最低	最高	最低		
昭和十四年 (上半期)	三、四五・〇	一、四九・三	二、五四・〇	一、五三・七	三、九七〇、六〇〇	六三、四〇〇
昭和十四年 (下半期)	一、三四・七	一、二二・二	一、三三・八	一、一七・〇	三、五三七、〇〇〇	一八、六〇〇
昭和十三年 (上半期)	一、五四・九	一、二七・〇	一、六四・六	一、二一・一	六、〇三七、六〇〇	四五、七〇〇
昭和十三年 (下半期)	一、六〇・五	一、一五・九	一、六〇・四	一、二六・三	三、五八三、六〇〇	一四、九〇〇



豊橋市内投宿人員

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

一ヶ月合計  
六四、〇九六人  
六五、〇四七  
五五、七九九

一ヶ月合計  
五、三一二  
五、六三九  
七、一四七

九〇

個人營業收益種類別表

種別  
物品販賣業  
物品貸付業  
金貨貸付業  
製造業  
運送業  
請負業  
印刷業  
寫真業  
旅館業  
料理業  
周旋業

昭和十四年  
業本業金  
一六  
一三  
一三  
一六  
一五  
一八  
一  
一  
二  
七

昭和十三年  
業本業金  
一七  
二八  
二八  
一  
二  
一  
一  
二  
七

代  
理  
屋  
立  
計  
業  
業  
業

昭和十四年  
業本業金  
一八、五〇〇  
二五三、四五〇  
八五〇

昭和十三年  
業本業金  
一七、八〇〇  
三〇八、一〇〇  
三、七九、〇〇〇

昭和十四年第三種所得種類別表

種別  
田作  
畑作  
工業  
商業  
金融業  
交通業  
娛樂・興業及接客業  
非營業貸金・預金・公債社債の利子  
配給・給料・歳費  
賞與  
諸業  
庶業

昭和十四年  
業本業金  
一七、一六一  
一九一、六一二  
四六、一八三  
六〇、五八七  
六八二、三二〇  
二、一二四、四一七  
五八、六二〇  
二二、一四〇  
四二一、〇七九  
九六、〇九五  
一、〇六八、二八五  
一、一九一、六四五  
三四二、一四九  
二四〇、八三三  
四〇四、六九三

種別  
原野其の他の土地  
貸宅地及貸家  
畜産及蠶業  
水産業  
勞力  
其の他の所得  
山林以外の所得  
山林の所得  
合計  
損失控除額  
税法第十五條控除額  
税法第十六條控除額  
税法第十六條の參項控除額  
差引合計  
九一  
七、〇三六、一〇〇

九一



## 交通と通信

交通施設—市民經濟—都市の膨脹—通信狀況—産業生活の充實—其の他統計

産業界現下の狀勢は大體以上の如くで、之れを大局から觀察すれば未だ幼稚であるが、我が豊橋の歴史よりすれば實に此の二十數年間に於て驚くべき長足の進歩發達を遂げ、今や全く隔世の感を催すのである之れは要するに主として交通施設の影響に依るもので、事實上豊橋は東三河に於ける經濟及び文化の中樞となつた。

表玄關たる豊橋驛を始め其他各驛最近の發着貨物及び乗客の狀況は、大體逐年増加の趨勢を示し、市内に於ける自動車の發達著しく、バスは當市を中心とし縦横に疾驅して居る。我が産業界は益々發展し、市民經濟の向上亦顯著である。豊川鐵道の姉妹線とも言ふべき鳳來寺鐵道は、豊川線の終點長篠驛から北設樂郡三輪村・川合間を運轉し、同鐵道鳳來寺口驛より鳳來寺村・海老町を経て北設樂郡田口町へ至る田口鐵道、渥美半島を縦貫する渥美電鐵は、豊橋驛前から田原町を経て黒河原まで運轉してゐる。名古屋を起點とする名古屋鐵道の市内乗入線は全通し、市内電車は豊橋驛から南は柳生橋、東は東田まで運轉し、大いに便宜を興へてゐる。三十有餘年來の懸案であつた三信鐵道は十二年八月全線の開通を見、海の日本と山の日本とを横斷し、信州飯田市へは僅か三時間餘を以て達し、伊那電氣鐵道に依り中央線辰野驛に連絡、裏日本と表日本とを結び付ける幹線で、豊川稻荷・鳳來寺・善光寺等を參拜する善男善女は勿論、一

般旅客の往來は頻繁となり、更に豊橋驛を起點としたる二俣線は遠州奥地とを結び、近く遠州氣賀を經由して東海道線掛川驛と完全連絡ならんとしてゐる。かくて、豊橋は忽ち四通八達の要地として急激なる都市的膨脹を來し、市民の産業生活・文化生活の發展充實に相應じて、通信の繁盛を加ふると共に、又其の機關の整備と之れが利用及び取扱の敏速を要するは當然のことである。

又、水運方面に於ては柳生川運河の完成に引續き、豊川改修並に豊橋港修築は愈々其の緒に就き、完成の曉に於ける當市の發展誠に多幸なるものがある。

### 貨物集散 (豊橋驛)

品名	發		送		到		着	
	昭和十三年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十二年度
米	一、七七八	七八四	一一、〇六六	九、五二六	九、五二六	九、五二六	九、五二六	九、五二六
麥類	八、九六一	四、六五二	六、九九八	四、〇二〇	四、〇二〇	四、〇二〇	四、〇二〇	四、〇二〇
大豆	二五	一	八〇四	一、七二五	一、七二五	一、七二五	一、七二五	一、七二五
雜穀	四九	八一	一、六二一	四四二	四四二	四四二	四四二	四四二
甘藷	三、四六九	二、九九三	三、八八	二五八	二五八	二五八	二五八	二五八
生野	四、四六一	四、〇六〇	八七九	四七一	四七一	四七一	四七一	四七一
柑	九六	八三	二〇	一九	一九	一九	一九	一九
リン	二	二四	六九五	七五六	七五六	七五六	七五六	七五六
其他	五〇九	四〇六	五五八	六〇四	六〇四	六〇四	六〇四	六〇四
其の他			九三					











品名	昭和十三年度		昭和十二年度		昭和十三年度		昭和十二年度	
	發	送	發	送	到	着	到	着
飼料	二、九七五	七、七三六	二、〇一〇	一、一五〇	三、五六	三、二八	二、〇一〇	三、二八
大豆類	二、〇一〇	一、一五〇	二、〇一〇	一、一五〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
木類	八七六	四八九	八七六	四八九	一六、四八五	一三、一三一	八七六	四八九
木材	六八九	三〇三	六八九	三〇三	二六〇	七〇	六八九	三〇三
炭類	四二、四〇二	四七、二一〇	四二、四〇二	四七、二一〇	三八	一五〇	四二、四〇二	四七、二一〇
利炭	九一六	三六〇	九一六	三六〇	九一六	三六〇	九一六	三六〇
石類	一、〇五九	一、一四四	一、〇五九	一、一四四	一、四七〇	一、八九五	一、〇五九	一、一四四
鹽類	二二〇	四二〇	二二〇	四二〇	三五九	四九三	二二〇	四二〇
肥料	五、五二六	五、五六五	五、五二六	五、五六五	四、八七五	五、三四九	五、五二六	五、五六五
石粉	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六
雜貨	八二〇	八二〇	八二〇	八二〇	八二〇	八二〇	八二〇	八二〇
油	三〇一	三九六	三〇一	三九六	六七二	一五八	三〇一	三九六
糖	二五六	二五三	二五六	二五三	一八三	四、三一六	二五六	二五三
米	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九
雜貨	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九
小	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九	一〇九

貨物集散 (船町驛)

品名	昭和十三年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十二年度
不羣丸	二〇	二四	二〇	二四
繩	二〇	二四	二〇	二四
工太	二〇	二四	二〇	二四
木	二〇	二四	二〇	二四
炭	二〇	二四	二〇	二四
紙具	二〇	二四	二〇	二四
生繭	二〇	二四	二〇	二四
鷄口	二〇	二四	二〇	二四
鐵木	二〇	二四	二〇	二四
カ	二〇	二四	二〇	二四
苗	二〇	二四	二〇	二四
電	二〇	二四	二〇	二四
薪	二〇	二四	二〇	二四
箱	二〇	二四	二〇	二四
軍	二〇	二四	二〇	二四
炭	二〇	二四	二〇	二四
混	二〇	二四	二〇	二四



米粘白ト生

石

灰板土土

豐橋市内各驛發着貨物

四五	二七	一四五	二四	二二
四五	二七	一四五	二四	二二
四五	二七	一四五	二四	二二
四五	二七	一四五	二四	二二
四五	二七	一四五	二四	二二
四五	二七	一四五	二四	二二
四五	二七	一四五	二四	二二
四五	二七	一四五	二四	二二
四五	二七	一四五	二四	二二
四五	二七	一四五	二四	二二

驛名	年次	小口扱		宅扱		貨切扱		躰扱		計
		發送	到着	發送	到着	發送	到着	發送	到着	
豐橋驛	昭和十三年	三二、八七二	三二、八七二	一、一八二	一、一八二	二、六八五	二、六八五	一、三〇二	一、三〇二	九、〇七九
	昭和十二年	三〇、一四四	三〇、一四四	一、三三七	一、三三七	一、五八八	一、五八八	一、〇〇〇	一、〇〇〇	九、〇七九
	昭和十一年	一九、一九二	一九、一九二	一、四九六	一、四九六	一、三三二	一、三三二	一、〇〇〇	一、〇〇〇	九、〇七九
吉田驛	昭和十三年	一、五六〇	一、五六〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、五八五	一、五八五	一、三〇〇	一、三〇〇	九、〇七九
	昭和十二年	四、一三一	四、一三一	一、九七七	一、九七七	一、三〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	九、〇七九
	昭和十一年	三、一三〇	三、一三〇	一、九七七	一、九七七	一、三〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	九、〇七九
船町驛	昭和十三年	一、七五	一、七五	二、五五	二、五五	二、七〇	二、七〇	一、八八	一、八八	九、〇七九
	昭和十二年	一、七六	一、七六	二、五五	二、五五	二、七〇	二、七〇	一、八八	一、八八	九、〇七九
	昭和十一年	一、六〇	一、六〇	二、三五	二、三五	二、七〇	二、七〇	一、八八	一、八八	九、〇七九
柳生驛	昭和十三年	四、四〇	四、四〇	一、〇六五	一、〇六五	五、八九六	五、八九六	一、四九八	一、四九八	九、〇七九
	昭和十二年	四、六三	四、六三	一、二九八	一、二九八	五、六七三	五、六七三	一、四九八	一、四九八	九、〇七九
	昭和十一年	四、八三	四、八三	一、五〇七	一、五〇七	五、八九六	五、八九六	一、四九八	一、四九八	九、〇七九

豐橋市内各驛乗降客及手小荷物

驛名	年次	乗降人員並に賃金		手小荷物數量並に賃金	
		乗客	賃金	發送個數	發送賃金
豐橋驛	昭和十三年	一、二四、五二九	九三六、〇五六	一、八四、九四八	七三、〇三〇
	昭和十二年	一、〇三、三四〇	八一七、七四七	一、六五、三三五	五七、五六八
	昭和十一年	八四七、二五三	七二八、三五三	一、五六、九九九	五五、五三五







豐橋郵便局郵便切手・葉書・收入印紙賣捌高

年次	郵便切手		郵便葉書		收入印紙	
	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額
昭和十三年	七七八、三三四	八、〇八三、二八九	六、七三九、八四四	五、三三八	一六、五六六	一、六九四、八六八
昭和十二年	四三七、七七三	六、五七五、四六四	六、三九二、六〇三	四七、〇九二	一三、七〇四	一、一五七、〇一七
昭和十一年	三四六、〇六六	六、一三九、三六八	五、八〇四、〇二二	四四、六六九	一一、五三四	八七一、四六六

豐橋郵便局電話通話數

年次	郵便切手		郵便葉書		收入印紙	
	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額
昭和十三年	一〇、三六四、〇三	五二、六四三	六、八五三、〇七九	一三四、三三	一、〇四六、四六三	二七、一三三
昭和十二年	一一、二六四、一四五	五〇、六八〇	七、四八一、二三	一七三、二五	一、〇五八、八六三	二五、五五九
昭和十一年	九、七七四、四九六	四〇、八、一六三	八、四三三、六五九	一三三、四七	一、〇九三、一五五	三〇七、五二一

豐橋郵便局電報發着數

年次	國內電報			外國電報		
	發信	着信	中繼者料	發信	着信	中繼者料
昭和十三年	一〇四、七四一	一七二、一五〇	一五四、四二二	三三	二八三	一〇五
昭和十二年	一六五、四五三	一九三、七六三	一三四、三八	四四七	四〇八	一五
昭和十一年	一五一、一三八	一八九、八六三	九四、四五九	三五九	三五九	一三



## 宗 教 教 育

一〇六

教育機關—學級數と児童數—秀才教育施設—  
宗教心の陶冶—神社と寺院—古建築

我が豊橋市の教育は晩近著しく進歩發展の域に達したけれども、一般の状況に就き、殊に施設上の事に關しては未だ到底満足することが出来ないのである。本年四月末現在によれば、市内には縣立豊橋中學校・縣立豊橋第二中學校・市立商業學校・市立高等女學校・市立女子商業學校を始め、二十四の小學校と、補習教育のため設けられた商業専修學校と、十四の青年學校がある。此の外豊橋高等家政女學校・豊橋松操女學校・豊橋高等實踐女學校・愛知高等和洋女學校・豊橋盲啞學校・豊橋速算學校・看護婦産婆學校等の私立學校、豊橋幼稚園・花園幼稚園・小百合幼稚園があり、此の外に市立圖書館・動物園、更に教育關係の事業を企畫實行し、又は直接教育の研究を目的とする市教育會並に教員協會がある。縣立・市立の中學校及び特殊の學校を除いて、以上公立小學校の學級數は三百七十三、児童數二萬一千六百三十四人であつて、之れを男女別にすると、男—一萬一千三百九十七人、女—一萬三百三十七人、而も年々増加する児童は著しく、既設の校舎は忽ち狹隘を告げるので、年々校舎の増設を行つて居る有様である。

次に財團法人豊橋育英會は昭和二年十月設立せられ、將來有爲の人材を養成する爲め廣く育英資金を募り、學資の關係上廢學にならんとする者に貸費補給を爲し、更に進んで右補給生及び豊橋出身の學生の爲めに、全國六大都市に寄宿舎を設立し、各自の負擔を減じ、向學の便を圖つて居る。其の他生活の改善を

高唱し、社會に貢獻する所極めて大なるものがある。其の外幾多の教育及び學術研究が行はれ、何れも相當効果を收めてゐる。

次には宗教方面であるが、豊橋市民の宗教心は果して如何に陶冶されてゐるであらうか、茲に之れを具體的に述ぶることは却々困難であるけれども、比較的正しい批判力の下に、自由信仰の態度を取つてゐる様に見受けられるのは、何んとなく嬉しい感じを起させる。而して本年四月現在市内に於ける神社の數は百十七社で、其の内縣社が二社、郷社が四社、村社が七十一社、無格社が四十社。尙寺院は總て二百二十六ヶ寺、之れを宗派別によると、曹洞宗—五十一ヶ寺、淨土宗—二十九ヶ寺、法華宗—三ヶ寺、眞言宗—六ヶ寺、天台宗—一ヶ寺、臨濟宗—二十一ヶ寺と、外に眞宗大谷派本願寺別院の一ヶ寺で、其の他神道教會—四十三ヶ所、佛道教會—同說教所—九ヶ所、基督教會—六ヶ所と言ふ状態である。然し飽海時代即ち鎌倉期以前に於ける神戸（今の豊橋地方を言ふ）のものとしては、中八町縣社神明社・羽田御厨のものとしては、湊町の郷社神明社並に葦御園のものとしては、東田町の郷社神明社などが顯著なもので、尙飽海時代に創立された神社には關屋町縣社吉田神社・東八町八幡神社・花田町郷社八幡社・岩崎町村社神明社、次で岩田町村社神明社・魚町安海熊野神社・新錢町村社白山比咩神社・岩崎町村社鞍掛神社の八社あり。寺院には西竺寺・妙徳寺・正琳寺等があつたけれども、多くは既に廢滅に歸し、今日遺跡の残つてゐるものは獨り正琳寺のみである。又建築の最も古いものを謂へば、寛文二年の建設に係る龍拈寺の鐘樓、次に延寶二年の建築で新錢町天神社の拜殿、夫れから貞亨二年で神宮寺の本堂、元祿二年で龍拈寺の觀音堂、同六年で龍拈寺の樓門、同七年悟眞寺の本堂、同十年神宮寺の樓門、同年末淨圓寺の庫裡などである。淨



圓寺の本堂も元祿以前の様に傳へらるゝが如何せん明確でない。外に神宮寺の護摩堂は寛永二十年、別院の鐘樓は同二十一年の建築であるが、何れも後世の修繕が著しく、原形を残してゐる部分は少ない様に考へられると同時に、之れを純の藝術として誇るに足るものは殆んどない。

豊橋市立小學校

(昭和十四年六月末)

校名	學級數	教員數		生徒數	
		男	女	男	女
豊橋高等小學校	二五	二一	八	一一四	五五四
岩田尋常高等小學校	一七	一六	四	四四二	三六五
東田尋常小學校	二四	一九	七	七九〇	七二九
八町尋常小學校	二七	二二	八	八二五	八五一
松葉尋常小學校	三〇	二四	八	九九五	九四〇
花田尋常小學校	二三	一七	七	七〇一	六六四
狭間尋常小學校	一七	一四	五	四九五	四八六
松山尋常小學校	二二	一七	七	六八二	六六七
新川尋常小學校	三〇	二四	八	一、〇八二	九七〇
羽根井尋常小學校	二三	一八	七	七五九	七〇五
下地尋常高等小學校	一六	一四	四	四一四	三三八
大村尋常小學校	六	五	二	八九	一一九
津田尋常小學校	六	五	二	一七	一三一
計		二一	八	一、一四	一、六六八
					八〇七
					一、五一九
					一、六七六
					一、九三五
					一、三六五
					九八一
					二、〇五二
					一、四六四
					七五二
					二〇八
					二四八

校名	學級數	教員數		生徒數	
		男	女	男	女
牟呂尋常高等小學校	一七	一五	四	四九五	五六五
吉田方尋常高等小學校	一二	一〇	二	二九四	二七二
高師尋常高等小學校	二八	一九	二	一八〇	二〇四
福岡尋常高等小學校	二六	一九	二	八二一	七七七
磯邊尋常高等小學校	八	七	三	一九七	一七七
大崎尋常高等小學校	九	八	一	二二一	二一五
野依尋常高等小學校	五	五	一	九八	一一〇
植田尋常高等小學校	四	四	一	九〇	八三
牛川尋常高等小學校	八	七	一	一九九	二二三
下條尋常高等小學校	七	六	一	一四二	一三一
多米尋常小學校	三	三	一	五五	六一
計	三三	三〇	一	一一、二九七	一〇、三三七
					一一、六三四

市立中等學校

校名	學級數	教員數		生徒數	
		男	女	男	女
豊橋市立商業學校	一八	四一	一	九六五	九六五
豊橋市立高等女學校	二一	二二	一	一一四	一、〇一九
豊橋市立商業專修學校	二	一	一	一	一
豊橋市立女子商業學校	六	九	四	一、〇七九	一、三四〇
計	四七	八六	一五	一〇、一九	一二、四一九



縣立學校

校名	學級數	職員數
愛知縣豐橋中學校	二〇	四二
愛知縣豐橋第二中學校	一五	二九
計	三五	七一

一〇

職員數

生徒數

九三六  
七〇六  
一、六四二

青年學校

校名	學級數	職員數	男	女	計
花田青年學校	五	七	一一五	一〇八	二二三
新川青年學校	四	五	三四四	一一	三四四
岩田青年學校	三	三	八二	一一	八二
下地青年學校	三	三	一三五	一一	一三五
牟呂青年學校	七	〇	一二五	三六	一六一
吉田方青年學校	五	五	一三八	二九	一五七
磯邊青年學校	四	二	一三	三九	一五二
牛川青年學校	四	〇	五七	三八	九五
東田青年學校	三	八	一〇八	一一	一〇八
八町青年學校	三	七	一八七	一一	一八七
松葉青年學校	五	九	四一六	一一	四一六
計	三六	二九	一、一七〇	二二二	一、三九二

私立各學校

校名	學級數	職員數	男	女	計
狹間青年學校	六	八	二四七	一一	二四七
高師青年學校	八	二	一一一	二〇	一四一
松山青年學校	四	八	三一八	一一	三一八
計	六四	二〇	一、一七六	二二二	一、三九八

豐橋市內幼稚園

校名	學級數	教員數	男	女	計
豐橋高等實踐女學校	二	二	一一	一一	二二
豐橋高等家政女學校	四	七	一一	一一	二二
豐橋松操女學校	六	七	一一	一一	二二
愛知高等和洋女學校	一〇	一〇	一一	一一	二二
豐橋盲啞學校	一	一	一一	一一	二二
豐橋速算學校	二	二	一一	一一	二二
豐橋市醫師會附屬看護婦產婆學校	三	二	一一	一一	二二
計	三二	二四	一一	一一	二二

豐橋幼稚園

組數	保母數	男	女	計
七	一〇	一三三	一四七	二八〇
計	一〇	一三三	一四七	二八〇







神	素	八	橋	小	進	八	諏	素	神	春	本	鹽	鳥	青	神	八	車
明	鳴	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明
社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

十月十六日	十月廿六日	十月十七日	三月八日	十月二十日	十月十二日	十月十一日	十月廿五日	九月廿七日	十月廿八日	十月十五日	三月十三日	四月一日	十月廿二日	十月廿三日	十月廿五日	十月十七日	十月十八日	十月廿九日
清須町字清須新田	植田町字西ノ山	小濱町字坂口	大村町字横走	橋良町字元野	小池町字山田川	横須賀町字宮元	佐藤町字一本木	山田町字郷	向草間町字向西	高師本郷町字本郷	多米町字畑ケ田	草間町字丸山	大山町字東大山	高須町字鳥塚	北島町字高田	菰口町字菰口	野依町字八幡	植田町字八尻

神	八	談	安	神	牟	熊	日	比	素	素	逆	若	八
明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明	明
社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

十月十五日	十月廿四日	十月十六日	四月一日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
大崎町字平地	船渡町字船渡	濱道町字芝切	下條西町字杉本	同 西町字西郷廻	同 東町字木戸口	岩崎町字坂尻	牛川町字中郷	神野新田町ノ割	魚 町	談合町字談合	岩田町字郷中	同 町字屋敷内	吉川町字吉川	馬見塚町字新藪切	新榮町字大溝	同	同	同















正太寺	眞宗	牛川町字西側	阿彌陀寺	臨濟宗	王ヶ崎町字王郷
圓忠寺	同	下條西町字川垂	圓通寺	同	上野町字上原
眞宗大谷派本願寺別院	同	花園町	柴雲庵	同	高師本郷町字榎
妙厘寺	法華宗	清水町	奧谷庵	同	荻原町字荻原
本門寺	同	東田町字前山	陽光院	同	植田町字池下
法華寺	同	牟呂町字行合	嵩山寺	同	野依町字中瀬古
乘運寺	同	下條東町字木戸口	東雲院	同	同
神宮寺	天台宗	紺屋町	萬福寺	同	小濱町字坂口
藥師寺	同	牛川町字藥師	正光寺	同	橋良町字中柱
臨濟寺	臨濟宗	東田町字西郷	正樂院	同	下條東町字中屋敷
吉祥寺	同	飯村町字本郷	瑞龍寺	同	同 西町字杉本
壽泉寺	同	五町字通	慶増寺	同	同 町字西郷廻
安養寺	同	向山町字庚申下	正圓寺	同	牛川町字浪ノ上
眞福寺	同	牟呂町字眞裏口	龍雲寺	同	同 町字郷裏
長榮寺	同	一色町字天狹	桃林寺	同	同 町字西側

### 社會事業

研究調査項目—社會的疾患—都市改良の根本義—  
共同責任の觀念

歐洲戰亂以來世界思潮は急激なる變化を來し、社會政策の氣運頓に勃興し、諸般の行政一つとして此の問題を度外に置くことが出來なくなり、社會事業調査員會も組織され、各種の社會施設に關し其の研究實行に着手したのである。されど所謂其の社會事業なるもの、範圍は實に廣範多岐であつて、今俄かに凡ゆる方面に亘り之れが研究施設を爲すを得ないから、逐次其の充實を期せんとする模様である。市は行路病者・同死亡者・窮民及び軍事の救護や罹災救助は、之れ迄よりも一層完全にすると共に、人事相談・失業者の救濟及び細民調査の隣保同化事業、尙進んでは無料診療所なども實施しつゝ、更に此れ等關係方面の研究の歩を進めてゐる。社會事業は總て事實に立脚しなければならぬ。現狀を曝露して識者の考慮を促すのは今日の最も急務とする處である。社會狀態の調査研究は從來餘り重きを置かなかつたのであるから將來大いに此の方面に努力を拂つて貰はなければならぬ。社會組織の缺陷から來る落伍者の數が、物質文明の進歩に伴ひ、年と共に激増の勢ひを示し且つ其の多くは集團を成して、所謂細民地區なるものさへ形成するに至るのである。社會的疾患は之れから生ずるので、之れを治療することは一面には各個人生存權の人道上の要求に合致し、他面には社會自衛又は社會向上に缺くべからざる處で、又都市改良の根本義であらねばならぬ。此の意味からして各種事業の施設計畫中、豊橋市役所内に設けられた方面委員事務所



は其の成績大いに見るべきものがある。豊橋市新川公設市場・松葉公設市場及び公益質屋は既に開設せられ、めざましき活躍をなしてゐる。尙小住宅の建設・保育所・簡易食堂の社會的施設に着手せられんことは望ましく思ふ。殊に最も注意すべきは市内に於ける救済施設の助成監督であつて、今其の既設事業を分類すれば、育兒感化及び託兒人事相談等を兼ねて居る東田の有隣財團と、豊橋盲啞學校等其の主なるものであるが、尙本市施設の無料宿泊所も好成绩を擧げて居る。之れ等は周到なる社會現象並に其の原因の調査に基き、統制的有機組織に依つて一齊に其の歩を進め、共同責任の觀念に依つて根本的に之れが改善向上を企圖しなければならぬと思ふ。此の外財團法人豊橋共存協會も設立され、託兒所も花田町に百北共存園・中郷共存園、東田町に前田共存園が設置されてゐる。

次に、社會事業の範圍に入らないかも知れないが、愛知國防義會豊橋支部・帝國軍人後援會豊橋支部・海軍協會豊橋市分會・豊橋市銃後奉公會・大日本國防婦人會三遠支部豊橋市分會・愛知縣商工團體銃後後援聯盟豊橋支部等によつて、我が國家の爲めに生命を賭して働く將士並に家族の慰問後援を行つてゐる。

## 土木衛生

地方開發——都市計畫

晩近豊橋市及び接續町村の急激なる人口増加の趨勢並に商業の殷賑・工業の隆昌、其の市及び町村部落を通じ、蔚然勃興の機運を醸成せる産業の發展に伴ひ、人車の交通・貨物の集散愈々繁劇の度を加へ、隨

つて交通機關の整備改善は蓋し急務中の急務に屬するので、市當局は之れ等交通の狀態に鑑み、豊橋市を中心として各道路の改善、其の幹線の連絡並に主要鐵道停車場を連絡する主要道路の改善に關しては鋭意之れを企圖すると共に、地方開發に必要な道路の改修を計畫し、時運に伴ふ施設を完ふせんことを頻りに研究調査を重ね、極力目的達成に努力した結果、昭和七年度より三ヶ年繼續第一期事業として、東部商業地帯と西部工業地帯とを聯絡する跨線道路橋並に地下道の施設は完成し、更に第二期事業として前記連絡道を基本として築港地帯と聯絡し、以て郊外重工業地帯と市の外廓重要路線を聯絡して物貨の集散に便するもの等の數線を選定し、之れを都心地帯より放射すると共に、一面本市の玄關たる驛前廣場の擴築を行ひ、其の他須要路線の新設或は改築を行ひ以て市區の改正をなし、同時に交通系統の圓滑なる運用を期し、更に市を中心とする南北郊外に於ける重要施設は着々進捗しつゝあるが、之れに伴つて將來この方面が商工業地帯として飛躍的發展をなすであらうことを豫想され、且つ國防的見地からも一大都市計畫の實施を見んとしてゐる。

上水道は大正十五年六月三十日市會を経て諸般の準備を整ひ、昭和二年七月十八日起工式舉行以來月を閱する三十三にして、工費二百六十有餘萬圓を以て完成を告げ、同五年三月二十九日通水式を行つたが、工事の概要は本市を環流する豊川の伏流水を水源とするものであつて、市内下條字西町三ノ下地先、同川本流の河底に集水埋渠を構築し、同河畔の送水場唧筒井に導流し、同所より新設送水管路及び縣・市道を經て東南三十三町を距る多米町字小鷹野の濾過池に送り淨水となし、同所内の高揚唧筒で淨水場を距る東八十間の高地給水場内配水池に送り、是れより計量室を経て自然下法により市街地の給水區域に送り、將



來人口増殖十六萬に達するも、送水及び配水管の増設並に相當附加工事を施すに於ては、給水に應ずべき設備である。本市の地勢は東方より西方に向つて傾斜するも、市街地は概ね低地に屬すると、市内街地では河川・溝渠の配置が尠いので排水不便であつて、衛生上極めて不良で、傳染病患者數等も亦相當多いので、本市衛生改善の見地より下水道の計畫は焦眉の急を感じる所となつてゐたが、昭和七年一月より着手せられ、昭和十一年三月竣工した。總經費三百七十四萬四千八百八十九圓といふ當市にとつては未曾有の尨大な土木事業で、彼の上水道よりも五十數萬圓多い。下水の排水は牟呂用水路を境として一は柳生川へ、他は豊川へ放流せられる。其中豊川に入る汚水は一旦處分場に於て淨化を行ふことになつてゐる。此の事業は本市衛生の改善の見地より喜ぶべきことであることは言ふ迄もないが、又失業救済の効果も極めて顯著である。

尙總工費十七萬圓を要した市公會堂は、昭和六年八月其の竣工を見た。總建坪三百五十餘坪、其の近世式文化的設備と、其の壯麗なる様式とは永く豊橋市の誇りである。

## 名 所 舊 蹟

今橋城—戸田・今川の争鬭—家康と織田氏—  
城主の交代—最後の藩主—吉田城址

今の豊橋を吉田と稱へたのは天文年間から明治二年迄で、其の以前は今橋と謂つた。當時三河の國の守護は吉良氏であつたが、文明の頃に至つて牧野古白が此の今橋に築城したのである。然るに永正三年八月

駿河の今川氏自ら軍を率ひて今橋城を攻めた。古白は城に據つて死守すること六十餘日、惡戰苦鬭を續けたけれど力遂に及ばずして自殺するに至つた。是に於て城は一時田原城主戸田彈正憲光の一族、戸田金七郎の有となり、其の後大永の始め頃に至つて、古白の遺兒傳左衛門成之と傳藏信成の爲めに再び取り返された。程なく成之は隱居して信成其の後を襲つたが、享保二年岡崎の松平清康大舉して此の城に襲來し、信成は一族郎黨と共に下地に於て戦つたが、武運拙くして遂に戦死し、城は一時松平氏の有に歸した。然るに天文四年吉田時代に至り、清康の守山崩れ以後は復び戸田金七郎の有となり、爾來十有餘年間舟形山一帶の山脈を境界として、戸田・今川兩氏の争鬭が絶へなかつたが、天文十五年遂に今川義元の範圍に入つたのである。處が永祿三年五月桶狭間の戦に於て義元戦死した。其の時徳川家康はまだ松平元康と言つて今川方の味方であつたが、其の翌四年に至つて義元の子氏眞との間に不和を生じ隣交は斷絶となつた。

其の頃吉田城には今川氏の將小原肥前守鎮實が居つて、東三河に於ける諸將の人質を此の城に預つて居たが、家康に屬したものは悉く龍拈寺口と言ふ處で殺して仕舞つた。家康が岡崎から大舉して此の城を攻めたのは永祿七年の初めであるが、其の頃今の豊橋市の東部に當る仁連木にも城があつて戸田主殿介重貞が居つた。此の重貞も早くから家康に心を寄せて居たが、何分にも其の母が人質として此の城に容れてあつた爲め、反旗を翻す前に先づ母を奪ひ戻さなければならぬと考へ、種々工夫した末に首尾よく目的を達した。家康は翌八年鎮實を亡ぼし、此の城を酒井左衛門尉忠次に與へた。斯くて程なく今川氏は衰へ、三河は勿論遠江全國までも徳川氏の有に歸するに至つたが、其の代り今度は追々甲州から武田氏の侵入が始まつた。即ち元龜三年十二月信玄軍を率ひて遠江の三方ヶ原に於て戦つたが、此の合戦は徳川氏の大敗



となつた。信玄は勢ひに乗じ更に三河に進入し、天正元年正月南設樂郡の野田城を陥れたけれど、此の戦の爲めに逝去するに至つたのである。然るに天正三年四月其の子勝頼大兵を擧げて仁連木城を襲ひ、續いて吉田城に迫つた。夫れから長篠の合戦となつたが、今度は武田方の大敗となり、之れが原因で天正十年三月織田信長と家康との爲めに根據を侵略されて、武田氏全く滅亡するに至つたのである。其の年六月織田信長は本能寺に於て明智光秀に殺され、之れより秀吉の舞臺となつた。秀吉と家康は小牧山で一度戦を交へたけれど程なく相和し、天正十八年秀吉が小田原に北條氏を征伐したときにも家康も國を明けて秀吉に捧げ自分も之れに従軍した。其の役の終つた處で家康は秀吉の爲めに關東へ移封せられたのである。此の時に忠次は既に隠居し其の子家次が相續して居たが、之れも家康に従つて上州碓井の城へ移つた。家次の後へ來たのは池田三左衛門輝政で、牛久保・新城・田原の三城も其の配下に屬し、知行十五萬二千石を領することゝなつた。仁連木城は此の時廢止されたのである。然るに慶長五年關ヶ原の合戦後、輝政は功を以て播州姫路五十二萬石に封ぜられ、吉田城を去り、其の後を繼いだのが松平玄蕃頭家清であつた。封祿三萬石。其の後慶長十七年に松平主殿介利忠、寛永九年に水野隼人正忠清、同十九年に水野監物忠善と屢々城主の更迭があつたが、祿高は矢張り多い處で四萬五千石位のものであつた。正保二年小笠原壹岐守忠知城主となつたが、夫れより長矩・長祐・長重と四代の間繼續した。小笠原氏に次いで元祿十年久世出雲守重之が來たが、之れも在城十年にして寛永二年牧野備前守成春と交代した。成春の次は其の子大學成英で、牧野氏に代つて此の地の城主となつたのは大河内氏である。大河内氏は正徳二年信親の時代に初めて古川から移封されて來たのであるが、享保十四年一度濱松へ轉封になり、之れに代つたのが松平豊後守

資訓で、之れも寛永二年になつて再び大河内氏と交代になつた。封祿七萬石。當時大河内氏は信親の代であつたが、夫れから信禮・信明・信順・信實・信璋を経て信古に至つた。之れが最後の城主で、吉田城址は今の歩兵第十八聯隊の營舎のある處である。

仁連木城—其の來歴と宗光—重貞の戦死—  
天正の戦—康長の戦功

東田の北に朝倉川と言ふ小川が流れて居る。之れは蟬川の下流であるが、此の川に臨める高地に仁連木城の舊址がある。此の城の來歴に就いて種々な説があるけれども、明慶年中戸田彈正左衛門尉宗光の築いたものであると言ふのが事實らしい。宗光が初め碧海郡上野の城に居たが、寛正六年五月徳川家康から七代目の祖に當る松平和泉守信光と共に室町幕府の命を受けて、三河國內の一揆を平定したことは蜷川親元の日記などにもあつて有名な話である。宗光は其の後居を渥美郡の老津に移し、更に一色氏の後を襲いで永正十三年の頃、田原に根據を構へたが、其の後更に時を得て此の仁連木にも城を築き、田原をば其の子憲光に委ねて自分は此處へ移つた。それは多分明慶初年の頃であると思ふ。宗光卒去の後は憲光及び其の次男吉光も此處に居城した事實がある。其の後は此の城も暫らく放棄されてあつた様に考へられるが、天文十年に至つて憲光の曾孫に當る丹波守宜光が牛窪の加治村から之れを再興したのである。永祿七年吉田城から其の母を奪ひ返した主殿介重貞は即ち其の子であつた。重貞は其の年の十一月吉田の城攻めに於て戦死したので、其の後を弟の甚平忠重が襲いだ。然るに之れも又永祿十年五月病歿した。當時其の子の康



長はまだ六歳の子供であつたから、一族の戸田傳十郎吉國と言ふ人が之れを扶けて陣代となつた。即ち元龜三年武田信玄の襲來に方つても、天正三年五月武田勝頼の來攻に際しても共に吉國後見の時代であつたが、其の家臣等の奮闘によつて天正の戦には敵首十八級を得、以て家康の臺覽に供したと傳へられて居る之れより先康長は松平の姓を賜はり、家康の同母妹久松氏に配したのであるが、後屢々徳川氏の爲めに戦功を立て、天正十八年家康の關東移封と同時に武藏國東方一萬石に封ぜられたのである。爾來仁連木城は遂に廢城となつて今日に至つたのであるが、今は大口喜六氏の所有地であつて一部農園となつてゐる。

豊川の清流—古名の色々—橋梁移轉—地子御免

—貨物の運上—舊幕時代の湊

豊橋の架つて居る川が即ち豊川である。其の源は北設樂郡段戸山に發し、南流して段嶺村を過ぎ、作手川を容れて寒狭川となり、南設樂郡長篠村に至りて三輪川を合し、更に西南に流れて寶飯・八名・豊橋二郡一市の界を爲し、前芝村に至つて渥美灣に入るのであるが、延長凡そ十七里である。この河の古名を飽海河と謂ひ、後吉田川とも言つたが、近世一名姉川の稱があつたが併し此の名は餘りに世に知られて居らぬ。昔飽海郷と渡會郷との間に志香須賀と言ふ豊川の渡しがあつたが、地形の變遷が甚しいので今其の位地が明かでない。元は此の名を然菅と書いたが、中世から白菅の字を訛用したるものと思はれるが、其の後又更に鹿菅なども書かれて居る。豊橋を渡れば市内下地町である。橋の此方が船町で、此の町は池田輝政の橋梁移轉に依つて漸次發展を來したものであるが、船乗又は運送渡世の者が多かつたので、慶長五

年關ヶ原の役には城主輝政の命を受けて伊勢の津又は松坂等へ往來したのである。夫れが縁故となつて爾來引續き藩主から船役を命ぜられ、地子御免の上此の河に輸入する貨物の運上を取ることをも認められて居たのである。而も舊幕時代には此處以外豊川沿岸の地に湊を許されなかつたから、伊勢又は尾張地方に交通する船舶は常に川下に輻輳して、船町の繁昌は著しかつたものであつた。

## 豊橋名代行事

笹踊—煙火—鬼祭

元祿時代と言へば誰も知らぬものはない江戸全盛の時であるが、其の驕奢な風は地方にまでも流れて來たので、彼の吉田の煙火なども此の頃から盛大になつた。勿論此の煙火は關屋町縣社吉田神社の祭禮に於て行はれたのであるが、元同社の神官であつた石田家の記録に依つて見ると、初めて建物（花火の一種）の大きなものが出來たのは元祿十三年のことで、長さ十三間、幅三間半で其の費用は二十四兩かゝつたとしてある。舊幕時代には祭禮中本町の通行を禁止し市街に於て打揚げたものであるが、今は社前と豊川の水上に於て行つて居る。又同祭禮に要する本町の山車に幕の出來たのも元祿十六年のことであるとしてあるが、萱町から出る笹踊の裝束も元は木綿の浴衣であつたのを元祿に入つて絹更紗染に改め、其の十七年に至つて緞子のものが出來た様子である。そのみならず、右の記録の中には其の笹踊を囃す爲めに大太鼓や小太鼓の打手の中に頗る名人が出來たと言ふことが詳しく記してある。吉田神社の祭禮は毎年七月十三



日より三日間であつて、吉田神社の風流を偲ぶ。十三日神前で行はれる大筒・手筒、十四日豊川の清流で打揚する打揚花火、十五日の笹踊は古への田樂の遺風で、十騎の武者行列・頼朝の姥・饅頭喰ひ等は今なほ此の祭に行はれる天下名代のものとなつてゐる。此の外豊橋市に於ける年中行事として主なるものは中八町縣社神明社の鬼祭である。此の社の例祭は毎年二月十四日・十五日兩日を以て行はれ、俗に之れを鬼祭と稱へて居るが、其の式は天狗の面をつけ烏帽子小具足を着けた武者が赤鬼を追ひ拂ふのである。此の外田樂の遺風である四天師のチンパ踊・笹良子のポンテンザラの神事を始め、黒鬼や榎玉争ひの神事、お頭様の波御になる順序で、此の神事は極めて奇なる祭で全國に其の例を見ること稀である。

### 附近町村を探ねて

豊川・鳳來寺鐵道沿線—豊橋以西—豊橋以東—

渥美電鐵沿線—八名方面—ハイキングコース

我が東三河は古い歴史を有つて居るだけに、今尙王朝以來の遺跡を始め室町期即ち群雄割據時代の城壘並に古戦城其の他武將の墳墓が到る處に見受けられる。先づ豊川鐵道の沿線では、小坂井町の東端に在る風祭で名高い菟足神社、次には徳川氏の葵の紋所が起つたと言ふ由緒ある伊奈城址、牛久保では今川義元並に舊一色城主一色刑部少輔の墓がある大聖寺、山本勘助の墓所で知られて居る長谷寺等あり、尙それから程遠からぬ處に牧野民部丞成定のために建立した光輝庵がある。牛久保驛より僅かに進むと豊川に達す

るのである。此處には吒枳尼真天によつて天下に有名な妙嚴寺の稻荷と、外に三明寺の名蹟、縣立蠶業試験場豊川支場及び全陸上競技聯盟公認の大グラウンドがある。豊川稻荷の新本殿は三十有餘年前より計畫せられ、昭和五年四月漸く竣工したといふ甚だ豪壯なものである。國幣小社砥鹿神社は三河一宮驛を去る三丁ばかり東方で祭神は大己貴命である。次は長山驛で、砥鹿神社奥宮に鎮座する三河第一の高山本宮山は此處から頂上まで五十餘町である。尙この驛には會社直營の遊園地があつて四季遊客を喜ばしてゐる。東上驛附近に牛の瀧あり、直下六十尺、行路極めて平坦で驛から八丁、夏季は避暑客が多い。次は野田城驛で笛の名人村松芳休の嚶唳たる妙音に誘はれて武田信玄が狙撃せられた野田城址へは僅かに五丁。更に新城出張所・縣立農蠶學校を始め高等女學校等があつて商工業亦盛んである。此の驛より約十丁、東新町より五丁で櫻の名所櫻淵に至ることが出来る。豊川鐵道の終點は長篠驛で豊川・鳳來寺兩線の接続する所である。此の驛を距る十四町餘寒狭川・三輪川二流交叉の處に長篠古戰場址があつて、附近一帯は武田・徳川・織田三氏の古戰場である。長篠役は天正三年五月甲斐の武田勝頼が、家康の臣奥平信昌を此の地に圍みたるに起因す。此の時鳥居強右衛門の最後は人口に膾炙せる處であつて、その墳墓は今も鳥居驛より一町餘の寒狭川畔に存在してゐる。其の他此の合戦に戦死せる甲將馬場美濃守信房・内藤修理亮昌豔・山縣三郎兵衛昌景・其の他の墳墓は今尙此の地を中心として附近に散在し、行人をして低徊顧眄の情に堪へざらしむるものがある。

鳳來寺の舊時を偲ばむとするものは鳳來寺口で、田口鐵道に乗り換へれば僅かに三哩で鳳來寺驛に至る山麓から本堂樂師如來迄は九町を登る。同寺は推古天皇の勅願により僧利修の開創せる處。天臺・眞言の二宗を兼ねて居たが、今は合して眞言一宗となり、極めて古い由緒を有つて居る。全山の風物總て壯觀を



極めたものであつたが、數度の火災に逢つて今日舊態を存せず、僅かに樓門並に東照宮祠などが尙昔時の面影を留めてゐる。東照宮は慶安四年の創立で、後度々修繕を加へられてゐるが、尙明かに徳川初期の様式を見るべきものがある。殊に此の山は阿蘇火山脈の終點に位し悉く火山岩で構成され、極めて斷壁千仞の奇勝に富み、夏季は夕方から曉へかけて靈鳥佛法僧鳴き、遠方の地から杖を引くものが多い。尙此の田口鐵道沿線は山寺の瀧・田峰の溪谷・東海一の長隧道・田峰の觀音・鹽津溫泉・添澤溫泉等勝景の地、遊覽の地に富んでゐる。

三河大野驛から行者越に道を取れば鳳來寺へ最も近徑で、大野橋を渡ると八名郡大野町である。町はづれの天神山公園に不動瀧がある。此處から山吉田村阿寺迄は二里餘りで自動車の便がある。飛泉豊かな七折の瀧あり、高さ百二十五尺、阿寺の七瀧と稱し、夏猶寒きを覺ゆる避暑地である。湯谷驛は所謂鳳來峽の中間で三輪川（板敷川）を隔てた對岸は縣道別所街道が坦々として北へのび、恰かも耶馬溪を見るが如き風趣をたゞへて居る。此の流れに沿ひ小盆地から湧出づる溫泉がある。これを鳳來泉と謂ひ萬病に效驗ありとて、驛は此處にホテルを經營し旅客をして心行くまで享樂せしむる。三河旗原驛は佳景に富み幾多の鳳來峽名所がある。此の地山深きに平地多ければ都人の別莊地として有望である。三河川合驛は本郷・御殿・振草を経て信州新野及び飯田に至ると、浦川中部を過ぎ久根銅山水窪に至る分岐樞要地點である。此の驛から凡そ三十丁餘りで有名なる乳岩の巖洞我を呑むが如く眼前に迫る。更に登れば天空に聳ゆる雄大奇蹟たる天然石門に達す。其の美に打たれ茫然たらざる者はない。幾多巖層よりなる連峰の雅趣を一眸に收め、川合の村落は浮繪の如く眼界に入る。春の山を飾る石楠花・深山躑躅の咲き亂るゝ麗はしさ、夏の納涼・秋の紅葉に衣を染むべき地。此の附近は多くの詩人墨客の杖を引くべき所である。更に開通を見たる三信鐵道を鳳來寺鐵道三河川合驛より接続して中部天龍を経て天下の絶勝天龍峽に沿ひて北伸し、天

龍峽驛に於て伊那電鐵に連絡してゐる。されば豊川・鳳來寺・三信・伊那電の四社一體となつて中部日本を縦斷して飯田市を経て中央線辰野驛に達するに至つた。

尙東海道鐵道沿線豊川鐵橋の以西では、御油驛の縣社御津神社・大恩寺・御油海岸等で、蒲郡は元西郡と蒲形とを合せたもので、今は海水浴場の設けがあり、ホテル・料理店等完備し、風光頗る明媚にして、夏季に各地から避暑に遊ぶ者が却々多い。愛電で豊川を越へ伊奈驛へ入る。此の附近は伊奈城のあつた處で其の名を知られ、愛電豊川線の分岐點であつて將來を囑目されて居る。國府は舊東海道で往時三河の國府があつた處で、同町の白鳥に總社があり、八幡村に國分寺と八幡社があつて、國府に關係淺からざるものである。西明寺入口の鷺坂等もよく知られて居る。八幡社の社殿は特別保護建造物で有名なものである。八幡村より東北二里餘りの山中にある財賀寺は、聖武天皇の勅願により行基の開創した名刹である。赤坂驛は古來から紅葉の名所で知られてゐる宮路山に近い。宮路山は持統天皇の舊蹟であつて山頂の遠望天下に絶し、春の蕨狩・秋の茸狩に佳く、長澤・山中・本宿は東海道古驛路で古くから知れてゐる。

次に東海道鐵道沿線を豊橋から東へ向へば、二川町の岩屋觀音・高師山・雲谷の普門寺・小松原の東觀音寺・鷺津の本興寺が歴史的に世上著聞の場所であるが、殊に岩屋觀音が其の最なるものであらう。それから八名郡方面では石巻山・石巻神社・本坂峠・嵩山正宗寺・月谷大洞窟等最も名ある處となつて居る。更に渥美半島方面に於ては、渥美電鐵の沿線小池町には潮音寺がある。曹洞宗に屬し行基の開創せるものと傳へられて居る。此の寺の觀音は潮道の觀音と稱し舊來有名なものである。師團口驛は、陸軍教導學校其の他軍衙の所在地であつて、明治四十一年十一月第十五師團司令部が今の地に置かれて以來著しく發展したものであるが、大正十三年五月軍備縮少により第十五師團司令部を廢止せられ、今は第三師團の管下となつてゐる。串淺蜷の製造に於て有名なる大崎へは師團口より約一里である。芦原驛より十丁程で野



依毘沙門天へ行くことが出来る。清水驛附近には富士瓦斯紡績豊橋工場があり、老津・谷熊・豊島の各驛より多賀壽命殿長仙寺の名刹へ何れも十三丁である。此寺は天平十七年行基の開創で現在の本堂は延寶九年頃の建築である。天白・神戸の各驛を経て田原に入ると、此處は明慶年間戸田宗光の築いた田原城址がある。田原藩の老臣にして書畫を能くし詩文に長じ、更に海外の事情に通じたる渡邊華山の墓は同町城寶寺境内にあつて、三宅氏の祖兒島高德を祀る縣社巴神社は舊城址の一隅に鎮座するのである。又田原藩の執政で火技を研究し造船の法に長じ、後學けられて藩政を掌つた村上藩致の墓も同町にあつて、片濱海水浴場へは同町より十八丁である。其の他神明社・阿志神社・長興寺・泉村鸚鵡石・福江泉福寺・伊良湖岬石門・村松、豊川河口では神野新田・前芝など何れも三河の名所舊蹟として廣く紹介する價值がある。

◆觀光地とハイキングコース

【鳳來寺と鳳來峽】

豊橋 電車 1時間10分 鳳來寺驛 2K 鳳來寺 3K 湯谷温泉 2K 三河橋原 電車 1時間15分 豊橋 72錢

▶沿線附近名勝……豊川稻荷・長山遊園地・野田城址・長篠城址

【渥美半島・伊良湖岬】

豊橋 電車 40分 三河田原 70錢 乗切 5K 伊良湖岬 10K 福江 電車 1時間 豊橋 46錢

▶沿線附近名勝……渡邊華山の墓・田原城址・歌人磯丸ノ遺跡・日出石門・陸軍試砲場

【新箱根・蒲郡】

豊橋 電車 20分 本宿 12K 3時間 蒲郡 電車 20分 豊橋 45錢

▶沿線附近名勝……宮路山・法藏寺・蒲郡海岸・竹島・大島・觀光ホテル

市内諸會社



# 目次

株式會社	一
株式會社支店及出張所	七
合名會社	八
合名會社支店	二
合資會社	三
豐橋會社數	六

## 豐橋市内諸會社

(昭和十四年六月末現在) (イロハ順)

營業種目	公稱資本金	所在地	名稱	設立年月日
消防具及刺子製造販賣業	三五,000円	鍵田町橋詰八ノ一	株式會社市田工場	昭九・一〇・三〇
味噌・溜釀造販賣業	一三〇,000	小池町字角田五ノ四	市川味噌溜釀造株式會社	同 一三・二・六
人造皮革製造販賣業	三〇,000	花田町字齋藤一〇八	日東製革株式會社	同 九・三・五
電氣鐵道業	一,100,000	同 町字石塚九〇	鳳來寺鐵道株式會社	大 一〇・九・一
鐵產物採掘精煉業	三〇,000	同 町字西宿一二六	寶來企業株式會社	昭 一四・二・二五
機械工具販賣業	三〇,000	關屋町八七	株式會社平信社	大 一四・一〇・三
有價證券買賣業	三〇,000	中八町一六ノ一	東海印刷株式會社	同 八・六・三
活版印刷業	五〇,000	花田町字稗田六三	東海產業株式會社	昭 八・一〇・七
有價證券・不動產買賣業	五〇,000	同 町字久保田六	東海工業株式會社	同 一三・一〇・八
鑄造及鐵工業業	100,000	北島町字北島二二〇	東亞食品株式會社	同 一三・三・六
鑄・壘詰製造販賣業	100,000	清水町二〇	東海モリス證券金融株式會社	同 七・九・三〇
金融業	一五,000	東八町一四二	東參昭和商事株式會社	大 一・二・二八
岩石採取販賣業	三〇,000	吉川町一三	株式會社東三青果市場	同 一五・七・三五
青果賣買取引業	四〇,000	北島町字北島二四八	豐橋重工業株式會社	昭 一四・四・九
諸機械器具製作販賣業	一五〇,000			



青果・鶏卵・海産物	三五〇〇〇	花田町字南島三七ノ一	株式會社豐橋青果市場	大	二・六・一〇
委託販賣	一〇〇〇〇〇	同 町字石塚四七〇	株式會社豐橋米穀取引所	明	二七・三・七
米穀取引業	五〇〇〇〇〇	同 町字棒手五一	豐橋瓦斯株式會社	同	四・一〇・一〇
石炭瓦斯製造業	二〇〇〇〇〇	同 町字北新起三四ノ一	豐橋川魚問屋株式會社	大	一三・三・五
川魚賣買業	一〇〇〇〇	舟原町六三	豐橋古物株式會社	昭	一四・四・一八
廢品賣買業	九〇〇〇〇	關屋町四五	株式會社豐橋水產市場	大	一一・一・二三
鹽干魚販賣業	一〇〇〇〇〇〇	花田町字石塚三八ノ一	豐橋乾繭委託株式會社	昭	九・三・三三
乾繭賣買業	二一〇〇〇	福岡町五八	豐橋南部料理業株式會社	同	一四・六・一八
貨家及金錢貸借業	六〇〇〇〇〇	魚町三五	株式會社豐橋魚市場	大	一三・九・一七
魚市場	一〇〇〇〇〇	魚町九五	豐橋無盡株式會社	昭	六・六・七
無盡業	一〇〇〇〇〇	花田町字石塚三一ノ一	豐橋倉庫株式會社	同	四・五・九
倉庫業	一〇〇〇〇〇	前田町一一	豐橋絹綿株式會社	同	一三・五・一一
絹綿製造販賣業	二〇〇〇〇〇	花田町字西宿八〇	豐橋合同運送株式會社	同	二・六・七
運送業	二〇〇〇〇	曲尺手町三七	豐橋工業株式會社	同	一三・三・一八
土木建築工事請負業	二〇〇〇〇	向山町字中畑一	株式會社豐橋絹織工場	同	一〇・七・三
織物捻糸製造販賣業	八〇〇〇	三輪町字白山九	豐橋衛生株式會社	同	五・一・七
糞尿汲取業	二、〇〇〇、〇〇〇	花田町字東郷一二ノ二	豐橋電氣株式會社	大	一〇・二・一
電燈電力供給業	五〇〇、〇〇〇	東田町字北臨濟寺三三	豐橋電氣軌道株式會社	同	一三・三・七
電氣鐵道業					

農産物食料品加工業	一〇、〇〇〇	花田町字南島三七ノ一	豐橋食料加工株式會社	昭	一三・三・三
衛生陶器製造業	一五〇、〇〇〇	同 町字築地七七	株式會社豐橋製陶所	大	一五・三・三
賣藥・醫藥・工業藥品製造販賣業	二、〇〇〇	新錢町三八	豐橋製劑株式會社	同	四・九・三
家屋賃貸業	二〇、〇〇〇	上傳馬町丙一一九戸	株式會社豐橋商品陳列館	明	三・一・一五
自動車運輸業	一〇〇、〇〇〇	花田町字東郷一二ノ二	豐橋自動車株式會社	大	八・〇・三
土地住宅ノ賣買	一〇〇、〇〇〇	曲尺手町三七	豐橋住宅株式會社	昭	五・二・八
住宅資金ノ貸付	五〇、〇〇〇	關屋町二七	豐川貯木株式會社	大	七・五・一〇
材木倉庫業	五〇、〇〇〇	船町一一一	豐川砂利採取株式會社	昭	二・三・〇
砂利採取販賣業	四、〇〇〇、〇〇〇	花田町字石塚九〇	豐川鐵道株式會社	明	二九・一・三四
電氣鐵道業	六五〇、〇〇〇	同 町字石塚三八ノ五	株式會社トミタ機械製作所	昭	一三・一・一一
機械工具ノ製作販賣業	五〇、〇〇〇	西新町五六	中央運輸株式會社	同	四・六・三六
貨物運輸業	四、〇〇〇	東八町一七八ノ一一	中外工業株式會社	同	二・二・九
上下水道工事請負業	七、六〇〇	東田町字北臨濟寺五六	中部土地建物株式會社	同	五・一・一五
土地建物賣買業	一八〇、〇〇〇	花田町字西宿八八	中央製乳株式會社	同	二・九・三五
乳製品・農畜產品製造業	五〇、〇〇〇	同 町字流川八〇	千代田印刷株式會社	大	二・六・一八
印刷業	一〇〇、〇〇〇	西ノ又町七〇	長祝齋園株式會社	昭	三・六・七
土地建物賃貸業	一八〇、〇〇〇	牟呂町字松崎二〇	株式會社奧平製作所	同	一四・五・四
諸機械器具ノ製作販賣	五〇、〇〇〇	松葉町九五ノ一	大洲工業株式會社	同	一四・五・四
砂利採取販賣・養魚					



酒類・清涼飲料水問屋業	500,000	花田町字西宿七八ノ七	株式會社川清商店	昭	四・三・七
綿及絹毛纖維ノ加工販賣	195,000	新錢町五八ノ一	株式會社加藤綿行	同	一四・三・二
石炭販賣業	8,000	湊町六九ノ二	株式會社横田石炭商會	同	一四・〇・三〇
人造大理石製造業	1,000,000	東新町一三五	大日本マーブル工業株式會社	同	六・〇・三八
物品販賣食物調理販賣	100,000	花田町字西宿六七	株式會社豐橋大門	同	一三・三・二九
旅客運輸事業	100,000	同 町字西宿六一	夕チバナ自動車株式會社	同	一三・七・三八
漁網ノ製造販賣	50,000	舟原町八五	大同製網株式會社	同	一三・二・二六
電氣鐵道業	3,000,000	花田町字石塚九〇	田口鐵道株式會社	同	二・二・六
製氷・清涼飲料水ノ製造販賣業	200,000	湊 町一六	大正製氷冷蔵株式會社	大	八・〇・一四
結婚媒介業	30,000	東田町字北蓮田九	株式會社禮典會	昭	六・五・二
金銀鐵採掘精煉業	3,000,000	花田町字齋藤四八	津具金山株式會社	同	九・三・〇
各種事業投資・金融不動產買賣	100,000	松葉町九五ノ一	津具商事株式會社	同	一三・二・五
諸機械器具ノ製作販賣	180,000	花田町字絹田八一	株式會社永田鐵工所	同	一四・一・三一
自動車運輸業	10,000	東田町字東前山九	山田松坂自動車株式會社	同	三・二・八
海苔販賣業	110,000	魚 町五八	山安海苔株式會社	同	一〇・一〇・六
清涼飲料水製造販賣業	80,000	關屋町三九	株式會社マルタ商會	同	五・九・九
豐橋乾繭取引所受託行爲	100,000	花田町石塚三八ノ二	株式會社丸上商店	同	一四・二・一五
倉庫業	300,000	同 町字西宿八三	マルケイ東海倉庫株式會社	同	六・三・一

四

鐵器製造業	150,000	北島町字高田一三八	マルサン鐵器工業株式會社	昭	一・二・四・三
倉庫業	10,000	花田町字西宿七二	丸共運送株式會社	同	五・六・一五
豐橋乾繭取引所會員ノ業務	50,000	花田町石塚四〇ノ一	株式會社丸ヤ商店	同	一四・一・三
不動產・不動産・有價證券買賣	300,000	荳 町二一五	福谷殖産株式會社	大	八・九・一八
炭鐵採掘業	20,000	他海町二五	富士産業株式會社	昭	二・七・二
土地・建物買賣貸並ニ	100,000	清水町三五	分銅株式會社	大	一五・二・三
金融	25,000	本 町二九	株式會社公益社	同	七・二・一
新聞・雜誌・圖書買賣業	140,000	北島町字高田六一ノ二	株式會社光明麥精麥所	昭	一・八・一〇
精麥及製油業	20,000	東田町字前畑三八ノ一	株式會社東田市場	同	一〇・四・一
土地・家屋賃貸・金融業	30,000	船 町五八ノ一	株式會社美川魚共同販賣所	大	一五・三・三
川魚・養魚賣買業	80,000	花田町字東郷一二ノ二	渥美電鐵株式會社	同	一・三・六
電氣鐵道業	2,500,000	中柴町道六、一三四	安全電業株式會社	昭	一・三・七・一
電燈・電力工事設計業	10,000	上傳馬町六六ノ二	榮商事株式會社	同	五・七・二
金融業	150,000	花田町字寺東一二ノ五	三遠木炭株式會社	大	九・三・三五
木炭・薪炭販賣業	50,000	本 町八ノ二	株式會社三陽新報社	同	一〇・一〇・三
新聞・雜誌發行業	60,000	花田町字西宿六九ノ二	蠶絲周旋株式會社	明	四・一・一三
繭問屋業・農海產物賣買	500,000	札木町三三	株式會社共同商店	大	九・三・三〇
繭絲問屋業	100,000	花田町字池田二〇	株式會社共立社	昭	八・五・二
生絲製造業	350,000				

五



節 製 造 業  
 運 送 倉 庫 業  
 貨 家 及 金 錢 貸 借 業  
 金 錢 貸 付 業  
 飼 料 ・ 餌 料 製 造 販 賣 業  
 活 動 寫 真 興 行 業  
 土 地 ・ 建 物 賣 買 業  
 燃 料 ・ 食 料 及  
 製 絲 工 場 用 品 販 賣 業  
 保 險 代 理 勸 業 債 券 賣 買 業  
 靈 柩 車 葬 儀 用 具 製 造 販 賣 業  
 貨 貨 及 乘 用 貨 切 自 動 車 業  
 保 險 會 社 代 理 ・ 金 融 業  
 有 價 證 券 賣 買 ・ 金 融 倉 庫 業  
 和 洋 菓 子 製 造 販 賣 業  
 土 地 建 物 賣 買 業  
 運 輸 倉 庫 業  
 運 送 倉 庫 業  
 動 產 不 動 產 賣 買 ・ 金 融 業  
 染 料 塗 料 ・ 工 業 藥 品 ・ コ  
 ル タ ー ・ コ ー ク ス 販 賣 業  
 圖 書 ・ 文 房 具 ・ 運 動 具  
 樂 器 販 賣 業  
 動 產 不 動 產 賣 買 並  
 株 式 會 社 問 屋 業

10,000	小池町字別當二	株式會社共立製飴所	昭	五・三・八
100,000	花田町字西宿六一	共益運輸倉庫株式會社	大	一四・三・六
10,000	小池町字中沖九八	共榮連株式會社	昭	一四・一・六
10,000	吳服町四五	豐商事株式會社	大	一四・二・一
100,000	牟呂町字扇田生川六ノ五	ユタカ産業株式會社	昭	一三・四・四
10,000	西八町五八ノ一	株式會社有樂館	同	七・九・〇
70,000	新錢町三一	三河土地建物株式會社	同	一〇・一・六
150,000	船町一二五	三河燃料株式會社	同	八・五・一
30,000	東田町字東前山九	昭和代辨株式會社	同	二・九・〇
2,500	花田町字小田原一九	昭和自動車株式會社	同	三・三・一
20,000	東田町字東郷一四六ノ二	昭和實業株式會社	同	一三・一・〇
150,000	花田町字狹間四四	昭和産業株式會社	同	一三・二・四
100,000	北島町字北島八五・一七	昭和製菓株式會社	同	二・三・〇
200,000	花田町字東郷一二ノ二	昭和土地興行株式會社	同	一三・〇・〇
50,000	北島町字北島二六六	株式會社白井運送店	同	八・七・六
10,000	關屋町一〇	十合株式會社	大	一五・四・〇
40,000	指笠町四五	株式會社守田屋商店	昭	九・三・八
60,000	花田町字西宿七五ノ二	株式會社精文館書店	同	六・八・九
500,000	松葉町一二ノ二	株式會社鈴木商店	同	八・七・七

六

株式會社支店及出張所

營業種目	公稱資本金	所在地	名稱	支店設置年月日
石炭・破油販賣業	40,000円	關屋町一〇ノ六	株式會社新美商店豐橋支店	昭 一三・三・二
菓子販賣業	600,000	上傳馬町五九	森永製品東海販賣株式會社	同 八・四・
砂糖・石油・麥粉 賣買仲繼問屋業	1,000,000	荳町三五	株式會社福谷商店豐橋支店	同 四・一・一
味噌・醬油釀造販賣業	1,500,000	花田町字齊藤一	大津屋株式會社豐橋工場	大 八・四・三
同	110,000	新川町新錢五一	野田醬油株式會社豐橋販賣所	同 一・三・
蠶具簇販賣	100,000	吉田町八三	種村蠶具商事株式會社	昭 一〇・六・
菓子パン製造販賣	300,000	紺屋町二四ノ一	敷島製パン株式會社	昭 六・二・五
煉炭製造販賣	50,000	下地町字四ツ谷三六	大濱三鱗煉炭株式會社豐橋支店	同 六・二・
百貨陳列販賣業	4,500,000	清水町二〇	株式會社丸物豐橋支店	同 九・九・八
百貨店業	1,500,000	花園町六八	株式會社松坂屋豐橋出張所	同 一〇・八・
紡績業	50,000,000	大清水町	富士瓦斯紡績株式會社豐橋工場	同 一・一・四
倉庫業	6,000,000	花田町字西宿	東陽倉庫株式會社豐橋支店	大 一五・三・三
運送問屋・倉庫業	5,000,000	湊町一	株式會社鈴與商店豐橋支店	昭 一・三・三
運送問屋・倉庫業	三,三九一,〇〇〇	花田町字西宿	名古屋鐵道株式會社豐橋營業所	同 二・六・
銀行業	五,五〇〇,〇〇〇	荳町一五	株式會社第一銀行豐橋支店	大 一五・四・一

七



銀行業  
貯蓄銀行業  
同  
同  
無盡業  
電燈・電力供給業  
電氣工事請負業  
製氷・鶏卵冷凍業  
保險業  
火災保險業  
同  
乾・繭・取引業  
看護婦派遣及養成業

一五、〇〇〇、〇〇〇  
六、〇〇〇、〇〇〇  
一、一五〇、〇〇〇  
二〇、〇〇〇、〇〇〇  
八、〇〇〇、〇〇〇  
二、三〇〇、〇〇〇  
五〇〇、〇〇〇  
一〇〇、〇〇〇  
二六、〇〇〇、〇〇〇  
五〇、〇〇〇  
九三、〇〇〇、〇〇〇  
一、五〇〇、〇〇〇  
一、〇〇〇、〇〇〇  
一、〇〇〇、〇〇〇  
五〇〇、〇〇〇  
一〇〇、〇〇〇

本町四〇戸  
中八町一〇五  
花田町字西宿  
札木町四一  
同町七五・七六  
紺屋町六ノ一  
花園町六八  
神明町四ノ一  
松葉町  
本町  
池田町  
船町  
鍛冶町  
花園町七〇ノ一  
花田町字石塚  
同町守下

株式會社愛知銀行豐橋支店  
愛知縣農工銀行豐橋支店  
株式會社大野銀行豐橋支店  
株式會社名古屋銀行豐橋支店  
株式會社不動貯金銀行豐橋支店  
株式會社日本貯蓄銀行豐橋支店  
株式會社岡崎貯蓄銀行豐橋支店  
株式會社愛知無盡  
東邦電力株式會社豐橋支店  
東海電氣株式會社豐橋出張所  
日本水産株式會社豐橋冷凍工場  
住友生命保險株式會社  
豐橋事務所  
日本簡易火災保險株式會社  
豐橋出張所  
日本動産火災保險株式會社  
豐橋出張所  
株式會社石橋商店豐橋營業所  
株式會社濱松看護婦會

明元・三・二九  
同三・三・四  
同三・五・一〇  
大六・二・一〇  
同九・一・八  
同二・一〇・一  
昭二・二・九  
大七  
昭二・三・九  
同二・九・一  
同二・一〇・一  
同三・四  
大三  
昭一・三・五

合友名會社

營業種目  
料理業  
玉絲製造業  
酒類・ソリス製造販賣業  
米穀・雜穀・薪炭販賣業  
襪・履物賣買業  
石炭販賣業  
同  
鹽元賣捌業  
砂利採取業  
飼料・雜穀販賣業  
ベルト・タイヤ・機械工具  
販賣業  
木材賣買業  
味噌・溜釀造業  
和洋料理業  
綿・絹綿・絨氈・米穀・薪炭販賣業  
和洋料理業  
金銭貸付業  
麻眞田製造業

資本金  
三〇、〇〇〇円  
五、〇〇〇  
七〇、〇〇〇  
六〇、〇〇〇  
四、〇〇〇  
七、〇〇〇  
二、〇〇〇  
六〇、〇〇〇  
四、〇〇〇  
一〇、〇〇〇  
三〇、〇〇〇  
一〇〇、〇〇〇  
一〇〇、〇〇〇  
一〇、〇〇〇  
一五、九〇〇  
一三、〇〇〇  
三〇、〇〇〇

所在地  
上傳馬町八一  
花田町字手棒八〇  
同町字齋藤兜・五〇・五二  
中世古町字中世古七二  
花田町字狭間六五  
中柴町字中柴一三  
松葉町一二  
船町九九  
下地町字東八九  
花田町字久保田十一  
柳生川運河畔  
吳服町二六  
松葉町三二九ノ一  
横須賀町字元屋敷一  
札木町六七  
花田町字狭間七四  
松葉町三一四  
神明町二一

名稱  
合名會社伊東屋  
合名會社井上製絲場  
合名會社伊勢屋商店  
合名會社米穀薪炭商山九商店  
合名會社紅久商店  
合名會社東洋蠶益社  
合名會社東洋石炭商會  
東三鹽業合名會社  
豐橋砂利採取合名會社  
豐橋飼料合名會社  
合名會社戸塚商店  
合名會社大橋商店  
合名會社小田商店  
合名會社借樂亭  
合名會社加藤秀次郎商店  
合名會社かどや  
曲七合名會社

設立年月日  
昭五・九・一五  
同二・二・一五  
同七・一〇・三五  
同九・四・三五  
大八・一・三五  
昭八・一・三五  
大九・九・三〇  
同二・一・三五  
昭三・三・一九  
同六・八・二一  
大二・〇・二八  
昭二・一・一五  
同四・八・三三  
同八・二・一  
大二三・八・九  
昭八・二・二七  
同九・四・二七



繭絲問屋業	15,000	本町二	河合合名會社	大七・五・一
陸海軍及學校用品ノ製造販賣・非常軍用銃砲製造販賣	50,000	小池町字上田一一	合名會社金山久次郎商店	昭一三・二・四
電氣器具・ラヂオ販賣業	8,000	本町一九	合名會社神谷電機商會	同九・三・二四
金物製造販賣業	60,000	船町二〇	合名會社吉田吉三郎商店	同二・一・三四
材木販賣業・木箱製造業	60,000	關屋町一三ノ三	合名會社高柳商店	同二・一・一
海産物・砂糖販賣業	30,000	魚町一七	合名會社瀧崎商店	明四・三・一
洋品・雜貨販賣業	5,000	同町九八	合名會社ツタヤ洋裝店	昭九・二・一
生絲製造業	35,000	花田町字大塚七八	合名會社内藤製絲場	大八・一・二三
酒・清涼飲料水	100,000	同町字守下七五ノ一	合名會社仲六商店	昭二・一・一
製造販賣業	100,000	本町二三	合名會社梅鉢屋商店	同二〇・一・一
文房具販賣業	100,000	牛川町字南台七・八〇	牛川製材合名會社	大九・六・二〇
製材業	8,000	本町九	合名會社山本商店	昭九・二・一
繭絲問屋業	80,000	花田町字狭間二一	山末合名會社	同六・七・三八
眞綿・布團製造販賣業	2,000	同町字大塚三九	丸二製菓合名會社	同六・一・三五
飴菓子製造業	33,000	同町字築地一四ノ五	合名會社丸糸絹織工場	同二・三・五一
織物・撚糸製造業	10,000	上傳馬町五〇	合名會社丸ヨ多米田商店	同九・三・二三
生絲問屋業	15,000	松葉町一五七ノ一	合名會社丸夕田中生絲店	同二〇・二・三〇
繭絲問屋業	8,000	湊町一一二	合名會社丸惣商店	同九・五・三
材木販賣業	60,000			

洋品・雜貨商	4,000	札木町五三	合名會社マルヤ洋品店	昭四・八・三四
清涼飲料水製造販賣業	30,000	船町一七二	合名會社丸三商會	同五・九・五
土地家屋・有價證券	10,000	前田南町二三・八・二三九	丸ノ合名會社	同二〇・一・二六
玉絲製造業・金錢貸付業	80,000	北島町字北島一八	合名會社丸十内藤製絲場	同八・二・三〇
吳服・太物商	10,000	花園町四四	合名會社マスマスヤ吳服店	同二〇・一・二六
印刷業	10,000	西八町八六ノ六	合名會社藤田印刷所	同七・五・一
荒物・雜貨商	10,000	船町四〇	合名會社藤城商店	同二・三・三三
金錢貸付業	3,000	花田町字西郷六	不二商會合名會社	同二〇・一・一
米穀販賣業	20,000	魚町三八	合名會社傳平商店	同四・九・一
アイデアル化粧品販賣業	5,000	花田町字西宿四八	アイデアル愛知販賣合名會社	同四・二・一
菓子製造販賣業	9,000	鍵田町二	三豐製菓合名會社	同九・四・五
土地賣買・金錢貸借業	10,000	花田町字西宿一四	坂田殖産合名會社	同三・二・三四
自動車・其ノ他部分品	50,000	新川町字市南八〇ノ一	合名會社三久商店	大二三・二・二〇
繭絲委託販賣業	50,000	花田町字狭間七四ノ一	合名會社關口商店	同五・五・五
佛壇・佛具・荒物・建具	6,000	札木町七三	合名會社正金堂	昭一三・二・三三
漆器製造業	15,000	花田町字守下六三ノ一	合名會社鈴木屋商店	同二・二・一

合名會社支店



營業種目	資本金	所在地	名稱	設立年月日
生絲製造業	50,000円	向山町字中畑	合名會社石川組豐橋支店	明 5.5.1
石炭販賣	100,000	關屋町二九	明石合名會社豐橋出張所	大 6.7.

合資會社

營業種目	資本金	所在地	名稱	設立年月日
繭絲問屋	1,500円	松葉町一五四	合資會社岩谷商店	昭 5.1.1
自轉車及殖林業	40,000	本町五	合資會社石原商店	大 14.3.26
乾繭委託賣買	10,000	向山町字中畑一	合資會社石川商店	昭 10.10.18
洋酒類及食料品賣買業	10,000	札木町一五	合資會社伊藤菊次商店	同 8.6.22
作業服シャツ製造販賣業	1,500	中柴町字道六、七、三	入中半田屋合資會社	同 8.9.1
繭絲問屋	5,000	萱町二一	合資會社入山二繭問屋	同 7.5.3
有價證券買賣業	3,000	松葉町二〇三ノ一	合資會社入福商店	大 15.8.30
味噌・溜・醬油・調味料及食料品製造販賣業	150,000	船町一二九	井ツヘイ醬油合資會社	昭 3.10.1
動產不動產買賣業	1,000	松葉町二一九	合資會社稻垣商店	同 7.6.30
自轉車販賣並ニ修繕業	3,000	同町一九四	合資會社今泉商店	同 5.6.1
漆器販賣業	10,000	曲尺手町七二	八星漆器合資會社	大 11.3.25
和洋酒類・醬油・味噌・清涼飲料料	11,000	西新町七四	合資會社服部伊賀屋商店	昭 5.9.1

營業種目	資本金	所在地	名稱	設立年月日
金物・陶磁器販賣業	3,800	吳服町二五	合資會社原川堂	昭 8.3.30
公債・有價證券・土地・家屋・電話買賣業	5,000	清水町一八ノ三	合資會社博信社	同 9.8.3
ゴム靴・運動靴・自轉車タイヤ賣買業	3,000	曲尺手町一四	合資會社萩山ゴム商會	同 6.7.18
洗濯業	3,000	花田町字松山五九ノ一	合資會社原田クリーニング商會	同 14.3.1
玉絲製造業	1,500	牟呂町字外神六三	合資會社西川製絲場	大 13.2.1
揮發油・重油・鐵油	50,000	北島町字北島六八	合資會社二明商店	昭 14.5.18
カーバイド販賣業	10,000	東田町字西郷四、五合ノ一	合資會社堀田製絲場	同 5.5.15
生絲製造業	3,000	北島町字北島一七	合資會社本多製絲工場	同 5.4.1
玉絲製造業	3,000	北島町字北島一七	豐榮商事合資會社	同 14.1.10
保險事務代理	4,000	曲尺手町二〇	星製絲合資會社	同 5.4.5
生絲製造業	2,000	往完町字往完東六〇	合資會社平和商會	同 3.3.18
自動車及附屬品販賣業	30,000	花田町字小田原六ノ一	合資會社鳥文商店	同 9.2.1
生鳥・雞肉・鶏卵販賣業	10,000	札木町八四	東海製靴合資會社	大 11.9.25
運動靴製造販賣	7,300	花田町字石塚九四ノ三	東海製靴合資會社	昭 9.9.30
各種擦糸製造販賣	10,000	前田町四六ノ一	合資會社豐橋パザ	同 2.6.18
洋物・袋物販賣	2,000	清水町二〇	合資會社豐橋ベニア板製作所	同 3.1.26
文房具・雜貨	10,000	花田町字絹田三六	豐橋度量衡合資會社	同 11.2.1
ベニヤ板製造販賣	4,000	鍛冶町一六	合資會社豐橋硝子工業所	同 7.7.25
度量衡器販賣業	1,500	花田町字大山塚三四		



諸樂器販賣業	二,500	新錢町六四ノ三	合資會社豐橋樂器商會	大	一三・三一五
運送業	二,000	關屋町一〇五戸	豐橋運送合資會社	明	二九・二・三
生絲・繭委託販賣業	一八〇,000	札木町六五戸	豐橋繭絲合資會社	同	三四・四・一五
金錢貸付業	七,000	中柴町字道六、一三〇	豐橋金融合資會社	昭	二一・九・三三
石炭販賣業	五,000	牟呂町字細田二六	豐橋水鳥石炭合資會社	同	三・六・一五
漁網・網糸製造販賣業	四,000	南小池町一八二	豐橋製網合資會社	同	一〇・二・二〇
時計賣買並ニ修繕業	二,000	松葉町一九五	合資會社豐田時計店	同	七・九・二六
石炭・燃料・油類販賣業	三,000	花田町字松山七四ノ二	東洋石炭合資會社	同	九・二・三〇
菓子製造販賣業	四,000	西八町六六ノ一	豐美屋合資會社	同	九・四・三五
有價證券・株式賣買業	五,000	花田町字石塚五四ノ一	合資會社常盤屋商店	大	一〇・二・三三
自轉車及附屬品製造販賣業	二,500	同 町字狹間一	合資會社常盤商會	昭	四・七・一
リヤーカー製造販賣業	八〇〇	松葉町三〇三	合資會社トキワ製作所	同	七・六・六
菓子製造販賣業	四,500	湊 町五四	合資會社當古屋菓子商店	同	七・七・一〇
テーパー製織販賣業	二〇,000	松葉町一五四	東洋テーパー合資會社	同	一三・八・八
製絲用機械器具ノ製作販賣業	八,000	談合町一ノ八	合資會社豐橋製作所	同	一三・一〇・三
眞綿製造並ニ販賣業	一,000	花田町字大山塚二一	合資會社千葉商店	同	九・一・二
撚糸製造業	二,七〇〇	牧野町字牧野二六ノ五	中央撚糸合資會社	同	一三・三・五
金錢貸付・動産不動産・有價證券賣買業	三,000	中世古町字中世古三六	中央殖産合資會社	同	六・一・一九

自轉車及附屬品販賣並ニ修繕業	一,000	船 町二五	合資會社黃米商店	昭	九・三・八
溜製造・味噌・酒類	四,000	花田町字稻場二六ノ三	合資會社大輪商店	同	九・七・一〇
薪炭・雜貨販賣業	一,500	同 町字野添一三ノ一	合資會社太田製菓所	同	六・二・一
餡菓子製造販賣業	二,000	同 町字八通三ノ一	合資會社大谷製絲場	同	七・九・三
生絲製造業	四,000	同 町字大塚六九	合資會社岡本商店	同	七・五・五
手層加工販賣業	三,000	同 町字百北一二九	合資會社小川製絲	同	二・八・一四
生絲製造業	五,000	吳服町四六	合資會社渡邊商店	同	六・三・一
洋家具製造販賣業	二〇,000	花田町字齋藤九四	合資會社渡會再製絲工場	同	一・八・三
再製絹綿糸製造業	七,000	西八町一五二ノ五	和 合 資 會 社	同	九・八・三
不動産賣買・貸借業	二,100	花田町字城海津野ノ六	合資會社加藤商會	同	一〇・三・二
海苔賣買業	一〇,000	萱 町五四	合資會社加藤商店	大	七・七・二
有價證券賣買業	四,000	花田町字築地一三ノ一	合資會社河合製絲場	昭	九・七・八
玉絲製造業	二,000	札木町八三ノ二	合資會社河合商會	大	一五・二・五
鮮魚賣買業	三,000	花田町字石塚四〇ノ一	合資會社河合商店	昭	一〇・五・八
蠟製造販賣業	二,100	東田町字北臨濟寺七ノ九	合資會社河合麻真田工場	同	一四・一・一九
麻眞田製造販賣業	一〇〇,000	本 町八	合資會社曲上三上商店	同	四・五・六
有價證券賣買業	二,000	萱 町八	合資會社曲久寺島商店	同	六・七・八
太物・雜貨販賣業	八〇〇	花田町字稻場四九	合資會社金丸麴屋商店	同	六・五・一



玉絲製造業	四、〇〇〇	花田町字野添五一	合資會社曲文製絲場	大	二・八・二
同	一〇、〇〇〇	同 町字五丁二五	合資會社曲五村磯組製絲場	同	一・三・三
生絲製造業	四、〇〇〇	同 町字西郷九〇	合資會社金杉製絲場	昭	二・二・〇
麻真田製造販賣業	八、〇〇〇	小堰町一〇五	合資會社金澤商店	同	一・三・一
薪炭・石炭・煉炭販賣業	一、六〇〇	下 町三二	合資會社角一村松商店	同	七・五・六
内外米雜穀販賣業及 精米・精麥業	五、〇〇〇	湊 町一六五ノ一	合資會社柏屋飯田商店	大	一・五・五・〇
酒精含有飲料製造販賣業	五、〇〇〇	瓦町字北臨濟寺九ノ四	合資會社柏屋商店	昭	一〇・二・三
新聞・雜誌賣買業	七、〇〇〇	花田町字狹間一三ノ一	合資會社關白堂	同	一・三・一〇・三〇
生絲・玉絲・再製絹賣買業	一三、二〇〇	關屋町七九	合資會社神崎商店	同	一・四・三・五
和洋酒類・味噌・溜販賣業	一〇、〇〇〇	花田町字稗田六七ノ一	合資會社吉川商店	同	一〇・二・一〇
印刷業	五、〇〇〇	關屋町一〇ノ二	大同印刷合資會社	同	九・七・一
清涼飲料水製造販賣業	一〇、〇〇〇	新川町字新錢六一	合資會社大丸商店	明	三・七・二・三
生絲製造業	一、〇〇〇	花田町字稻場二六	合資會社立花製絲場	大	一・四・三・五
和洋菓子販賣業	四、〇〇〇	札木町一七	合資會社高田屋商店	昭	九・二・一〇
金錢貸付業	一〇、〇〇〇	花田町字城海津四ノ三	寶商事合資會社	同	五・八・一〇
薪炭・燃料賣買業	二、〇〇〇	同 町字稗田六三ノ一	合資會社高柳商店	同	五・二・一〇
竹材・木炭・繩類販賣業	六五〇	菰口町字雨田六二	合資會社竹新商店	同	五・二・一五
味噌・醬油製造販賣業	三〇、〇〇〇	關屋町五二	合資會社田新醸造部	大	八・四・一五

豐橋驛構内辨當	二五、〇〇〇	花田町字西宿前番ノ二	合資會社壺屋辨當部	昭	二・九・三〇
ポンプ發動機製造販賣業	五、五〇〇	北島町字北島一〇〇	合資會社土田鐵工所	同	一〇・八・六
生絲製造業	二、八〇〇	花田町字中郷五五	合資會社辻製絲	同	三・二・一八
肥料販賣業	二五、〇〇〇	關屋町一〇ノ七	合資會社内藤商會	同	一・二・三・七
與服・太物・洋物類賣買業	三、〇〇〇	花田町字南島九二ノ三	合資會社長畑商店	同	八・二・三
薪炭販賣及輕便炭 製造販賣業	一、五〇〇	中世古町	合資會社中西商店	同	一〇・一・七
青物・乾物・食料品販賣業	一〇、〇〇〇	新川町字市南八ノ四	長尾合資會社	同	九・二・二六
麻類製品販賣業	一、五〇〇	松葉町一九九ノ一	合資會社中神商店	大	八・四・三
袋物製造販賣業	二、〇〇〇	本 町三七	合資會社長坂商店	同	三・一〇・三〇
時計・附屬品・眼鏡販賣業	八〇〇	花田町字於樹木五〇	合資會社中島時計店	同	七・九・二
建築請負及養鶏業	六〇〇	花田町字稻場四八	合資會社夏目組	同	五・九・一五
金錢貸付・動産不動産 賣買業	一〇、〇〇〇	牟呂町大字牟呂一四戸	夏目合資會社	同	一〇・三・二八
銅像原型・教育石膏製造 販賣業	二、〇〇〇	松葉町八一	合資會社南柳館柳原製作所	昭	九・五・三五
綿布類卸・小賣業	三、〇〇〇	中柴町字中柴三四	合資會社村富商店	同	五・一・一六
夜具綿類加工製造販賣業	二、〇〇〇	花田町字齋藤八〇	合資會社村田組	同	七・六・一
建築請負業	五、〇〇〇	小田原町五〇ノ一	合資會社内山商店	同	八・一・二
米・麥・馬糧加工販賣業	一、五〇〇	花田町字城海津四五	合資會社野澤自轉車店	同	一・四・四・八
自轉車附屬品販賣修繕業	五、〇〇〇	同 町字城海津一〇	合資會社黑柳商店	同	一・四・三・八



機械製造販賣業	11,000	本町五	合資會社倉地商店	昭九・一・七
金物類販賣業	3,500	中柴町字中柴七三	合資會社釘屋商店	同八・〇・六
綿及寢具ノ販賣	6,000	花園町二七	合資會社草間屋商店	同四・四・一
和洋料理業	30,000	上傳馬町一一二	合資會社八千久	同八・四・四
生絲・玉絲・再製絹絲	5,000	花園町字間田一〇ノ一	合資會社山一中村商店	同二・四・六
製糖・海産物・雜貨	5,000	牟呂町字中村一二五	合資會社山加加藤長平商店	同六・七・一
米雜穀・海産物・雜貨	5,000	花園町字五丁二九ノ一	合資會社山竹組大正館製絲所	同七・三・五
生絲製業	45,000	三ツ相町三ツ相二二六	山大吉良石炭合資會社	同九・九・一
石炭賣買業	5,050	吳服町三八	合資會社山田屋商會	同九・三・一
製粉原料・粉類・餡・砂糖販賣業	30,000	魚町五八	合資會社山安食料品店	同10・二・五
青物・乾物・食料品販賣業	20,000	西ノ又町一〇一	合資會社山中商店	同10・10・10
麻真田製造販賣業	4,000	湊町三八・三九	合資會社山口章次商店	同二・三・三
佃煮製造販賣業	15,000	手間町二八	山佐商店合資會社	同六・二・10
餡販賣業	6,500	花園町字齋藤一一七ノ七	山サ島薪炭合資會社	同七・六・30
薪炭賣買業	1,500	荳町一〇	合資會社山二關口商店	同七・五・30
繭絲問屋業	6,000	大山町字西坪五	合資會社山本養魚場	同五・九・三
養魚並ニ飼料賣買業	5,000	松葉町二八六	合資會社山本商店	大一一・五・六
青乾物・果實・砂糖	3,000	花園町字野添四二ノ二	合資會社山本商店	昭五・三・五
味噌・醬油釀造販賣業	3,000			

運送業	1,000	花園町字狭間八三ノ五	合資會社丸一運送店	昭七・四・30
生絲製造業	20,000	同町字南新起一ノ三	合資會社丸石黒製絲場	同七・八・30
同	1,500	向山町字下畑一三	合資會社丸イ製絲	大一一・五・七・二
同	3,000	花園町字堀先七三	合資會社丸大鈴木製絲場	昭七・七・一
同	3,000	同町字稻場七二	合資會社丸八一清園	同七・七・三
薪炭販賣・家屋賃貸業	2,800	前田南町二六六	合資會社丸八織物工場	同10・二・10
絹及綿織物製造販賣業	7,000	松葉町一九三	合資會社丸豐豐橋合同運送店	同二・六・五
運送業	6,000	中柴町字道六、二ノ四	合資會社丸鳥白井商店	同二・三・九
生鳥鶏肉販賣業	6,000	同町字道六、齒ノ一	合資會社丸中中央運輸組	同三・二・四
一般貨物運輸ノ受託	5,000	花園町字南新起五ノ一	丸共土地合資會社	同四・三・五
土地賣買業	74,400	同町字南新起四ノ一	合資會社丸共製絲工場	大一一・二・五
玉絲製造業	3,000	東田町字舟原一〇八	合資會社丸合河合製絲所	昭六・八・五
同	13,100	札木町二	合資會社丸上錦光堂	大五・四・五
陶器燒付並ニ販賣	1,000	花園町字守下三	合資會社丸太岡本商會	昭六・七・三
有價證券販賣	3,000	同町字稗田七二	合資會社丸玉繭絲問屋	同六・六・一
繭絲・屑絲委託賣買	4,000	新錢町四三	合資會社丸倉運送店	同八・三・三
運送業	10,000	中柴町字道六、七六	合資會社丸な夏目材木店	同七・八・10
材木・板類製造販賣	10,000	花園町字小松九	合資會社丸五組製絲場	同二・二・三
玉絲製造業	48,000			